

平成 28 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 聖ヨハネ会

社会福祉法人聖ヨハネ会

基本理念

カトリックの精神に基づき、永遠の生命を有する人間性を尊重し、「病める人、苦しむ人、弱い立場の人」に奉仕します。

基本方針

1. 援助を必要とする人々をかけがえのない存在として関わり、人間の尊厳にふさわしい医療または福祉を追求しながら、共にいのちの質を高め合う全人格的な援助を行います。
2. 社会福祉の事業として、良質なサービスを提供し、公正に運営します。
3. 法令及び規程に則り、事業を運営します。
4. 地域社会に立脚した事業として、地域の福祉または医療に貢献します。

職員の心得

1. 私たちは法人の理念を理解し、その具体的な実現に努めます。
2. 私たちは自己の使命を認識し、その職能の専門性を十分に発揮するように努力し、各々が役割に応じた自己啓発に努めます。
3. 私たちは社会福祉事業である各施設を相互に理解のもとに、連携、協力を努めます。

活動の理念

病に苦しむ人、ハンディを負った人、自立の困難な人の隣人となって、援助の手を差し伸べ、その必要に応じて最善を尽くします。

平成 28 年度事業報告

目 次

一	法人本部事業報告	1
二	事業経営	5
	1 障害福祉部門	5
	2 高齢福祉部門	21
	3 医療部門	56
	4 公益事業部門	65
	5 収益事業部門	68
三	理事会並びに評議員会	69
四	評議員選任・解任委員会	70
五	経営会議	71

一 法人本部事業報告

【はじめに】

平成 28 年 3 月 31 日に社会福祉法等の一部改正が成立し、今年度はその対応にあたる年であった。

まず、すべての社会福祉法人が定款変更の手続きを行う必要があり、国が示した社会福祉法人定款例を参考に、定款変更の案を作成し、評議員会及び理事会の承認を得て、所轄庁である東京都へ申請し承認された。尚、今般の改正法により、当法人の所轄庁は厚生労働省から東京都に変更となっている。

次に、この変更した定款の定めにより、新たな評議員を選任することとなった。定款では評議員選任解任委員会を設置して選任することとしており、4名の委員（監事1名、事務局員1名、外部委員2名）を理事会で選任し、同委員会を1月に開催して9名の新評議員が選任された。

また当法人は改正法により、会計監査人設置対象法人となり、今年度はその候補者の選定の準備年度であった。候補者の選定はホームページで公募により提案書を入手し、監事の審査を経て候補者が決まった。法人本部及び各事業所の予備調査が実施され、改善報告等を受けることとなる。尚、会計監査人については、平成 29 年 6 月に開催される定時評議員会で決定されることとなる。

その他に平成 28 年 4 月 1 日施行分として、事業運営の透明性の向上（会計基準に関する法規定の整備、定款計算書類等の公表）、地域における公益的な取り組みを実施する責務等が掲げられ、いずれも対応あるいは整理をしたところである。

今年度は法人の中期行動計画（平成 26 年度～28 年度）の最終年度であり、前中期行動計画から引き継ぐ形で中期的な行動内容について①サービスの質の向上②公益的取り組みの推進③トータルな人材マネジメントの実現④組織統治（ガバナンス）の確立という 4 つの視点で本計画の締めくくりとして取り組んだ。

このうち「サービスの質の向上」では桜町病院での外来コンシェルジュ機能の強化、高齢者のデイサービスの空き状況のホームページへの掲載を進めた。

「公益的取り組みの推進」では、桜町病院が中心となり継続的に市民講座を開催した。

また社会貢献・地域貢献として取り組んだ高齢福祉部門で実践したフィッティングサポート事例が全国経営協でも取り上げられ、全国発表会に紹介された。

今年度は熊本県で第 35 回全国社会福祉法人経営者大会が開催され、社会福祉法人の日ごろの実践や新たな試みといった経営実践事例を紹介する機会があり、富士聖ヨハネ学園で実践した「栄養マネジメント加算を通じた食に関する支援の意識改革について」という内容で選考会へ応募した結果採用され、事例集への掲載をしていただくこととなった。

「トータルな人材マネジメントの実現」については、昨年に引き続き平成 28 年 11 月に法人全体を対象としたボーリング大会を小金井市で開催し職員の交流を図った。また法人全体での合同研修について、今年度も東京都社会福祉協議会の派遣講師制度を活用して実施した。さらに各事業のこをを知る機会を設けることを試み、「職場紹介」と称して持ち回りでそれぞれの職場を紹介する場を設けた。

「組織統治（ガバナンス）の確立」では、改正法に伴う社会福祉法人会計基準の見直しがあり、モデル経理規程を参考にしながら法人の経理規程の改訂を図った。

一昨年からはじめた法人レクリエーションや法人合同研修、職場紹介、と法人全体で実施する研修・イベント・説明会が増えたことについて、職員の反応もよく積極的に交流の機会を持ちたいという声も多く出ている。職員へのアンケートでも他事業所の職員との交流をもっと増やしたいと希望があり、他事業所のこを知りたいという意見も多い。今年度は助成金を活用してテレビ会議システムを導入し東京地区と山梨地区を結ぶツールができ、会議は勿論のこと研修についても移動することなく多くの参加が可能となった。今後も法人全体の動きを考えていくとともに定例化していきたい。

また経営実践事例や社会貢献事例を情報発信していくことは当法人を知っていただく最もいい機会であり、職員が日頃実践している業務内容を振り返ることが出来るいい機会でもある。これからも積極的に実践していく機会を設けることを考えたい。

医療・介護・福祉の各機能を有する当法人に期待されることは、地域包括ケアシステムに代表されるとおり、事業所単体の活動によるサービス展開から分野の連携を図ることでの切れ目

のないサービスの提供ということになる。自治体が実施主体となっている「地域支援事業」について、小金井市などから認知症への早期対応に関する協力病院としての役割や、在宅医療と介護の連携を推進するための相談受付業務などについて、協議していくあるいは事業を委託したいといった投げかけがある。地域における公益的な活動も推進していく上でも、行政機関、医師会などとも連携して地域システム構築のために協力していきたいと考える。

【事業報告】

1. 改正法への対応について、社会福祉法人定款例を参考に理事会・評議員会での審議を経て定款の変更の承認を所轄庁から受けた。また変更定款の定めに従い、新評議員の選任を行うため、評議員選任・解任委員を4名選定し、同委員による評議員選任・解任委員会を設置して9名の新評議員を選任した。
2. 次期中期行動計画（平成29年度～31年度）の策定について、改正法により今後社会福祉充実計画などを検討する上で将来計画なども示す必要があり、また法人としての将来像を公表していくことも求められてくることから、この中期計画については法人の各部門における計画を策定し掲載すべきであろうということを法人の経営会議で協議した。そこで第3期（平成29年～31年）計画からはこれまでの法人を取り巻く全体構想に加えて、各部門の具体的な計画を記載することとした。名称も「中期経営計画」とすることとした。
3. 当法人は会計監査人設置対象法人となることから、その候補者について法人のホームページで公募し、10法人の中から監事の審査により候補者を選定した。そして同候補者による予備調査が実施された。
また（独）福祉医療機構で構築される「財務諸表等電子開示システム」への対応と社会福祉充実残額を算出するために、会計ソフト「福祉大臣」のバージョンアップを図った。

4. 法人機能の強化

(1) 経営実践事例の発表

前述のとおり社会福祉法人の経営実践事例について、全国社会福祉経営者協議会から募集があり、富士聖ヨハネ学園から応募したところ、紹介事例として採用され事例集に掲載された。

○タイトル：栄養マネジメント加算を通じた食に関する支援の意識改革について

作成者：富士聖ヨハネ学園 食事サービス課課長

(2) 法人合同研修の開催

東京都社会福祉協議会が登録講師を派遣し研修会を開催するという事業を行っており、法人の合同研修の場として活用した。また法人内研修として他部門も参加した研修も実施することができた。今年度は3回の合同研修を開催している。内容は以下の通りである。

○開催日：平成28年8月31日（水）18：30～20：30

開催場所：本館戸塚ホール

研修名：現場リーダーの為の人材マネジメント開発 基礎編

講師：東京YMCA 医療福祉専門学校 就職指導室長 渡邊義昭氏

参加者：桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者在宅サービスセンター、富士聖ヨハネ学園、障害者地域生活支援センターから計35名

○開催日：平成29年1月18日（水）18：00～20：00

開催場所：本館戸塚ホール

研修名：難しい職場の人間関係を考える

講師：特定非営利活動法人介護資格取得推進会 理事長 金子進氏

参加者：法人本部、桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者在宅サービスセンター、富士聖ヨハネ学園、障害者地域生活支援センターから計56名

○開催日：平成29年2月24日（木）17：30～20：00

開催場所：本館戸塚ホール

研修名：スピリチュアルケアにつながる「聴く」ちからを養うコミュニケーションワークショップ

講師：桜町病院 ホスピス科医師

参加者：桜町病院、富士聖ヨハネ学園から計33名

(3)「職場紹介」の開催

法人内の交流を目的として「職場紹介」の機会を設けた。これは他事業所がどんな仕事をしているのか、また自身が所属する事業所の各部署などがどんな業務をやっているのか等を紹介することで、職員がより深く法人のことを知ることが狙いである。今年度は発表形式の場を設けたが、発表の内容を広報誌のようにして配布することも検討していきたい。

- 日 時：平成 28 年 8 月 3 日（水）18：00～19：00
場 所：本館戸塚ホール
発表内容：大切にしている取り組み ～明日への試み～
発表者：富士聖ヨハネ学園 園長
参加者数：33 名
- 日 時：平成 28 年 11 月 30 日（水）18：00～19：00
場 所：本館戸塚ホール
発表内容：桜町病院における地域医療連携室の役割
発表者：桜町病院 地域医療連携室
参加者数：42 名

5. 事業運営に沿った規程類の整備について
前述のとおり、改正法に伴い経理規程を改訂した。
また、桜町病院の職員給与規程、高齢福祉部門及び障害福祉部門の就業規則、職員給与規程、組織規程について改訂した。
6. 小金井訪問看護ステーション、聖ヨハネホスピスケア研究所、シニアハイムさくら及び障害者地域生活支援センター関連の、会計業務及び事務業務を支援した。
7. その他活動については、後述の経営会議の活動実績を参照されたい。
8. 庶務・登記・監査事項等
- 1) 定款変更認可申請
(ア) 平成 28 年 12 月 19 日認可
認可内容：改正社会福祉法対応のため
(イ) 平成 29 年 3 月 24 日認可
認可内容：忍野村村道整備に係る基本財産処分による変更
- 2) 登記

登記年月日	登記内容
平成 28 年 5 月 30 日	資産の総額 (5,674,945,473 円)
平成 29 年 2 月 13 日	基本財産の変更 (山梨県南都留郡忍野村忍草 2750-28 の富士聖ヨハネ学園の土地 8,592.62 m ² ⇒8588.01 m ²)
平成 29 年 2 月 13 日	基本財産の変更 (山梨県南都留郡忍野村忍草 2753-1 の富士聖ヨハネ学園の土地 3,177.62 m ² ⇒3,176.87 m ²)
平成 29 年 2 月 13 日	基本財産の変更 (山梨県南都留郡忍野村忍草 2753-3 の富士聖ヨハネ学園の土地 610 m ² ⇒599 m ²)
平成 29 年 2 月 13 日	基本財産の変更 (山梨県南都留郡忍野村忍草 2758-1 の富士聖ヨハネ学園の土地 4,261.10 m ² ⇒4,260.52 m ²)

3) 指導監査等

実施年月日	内容	監査人等
平成 28 年 5 月 11 日	決算監事監査	監事
平成 28 年 5 月 23 日	指定（介護予防）訪問看護事業所集団指導	東京都福祉保健局指導監査部指導第三課
平成 28 年 11 月 14 日	医療法第 25 条第 1 項の規定に基づく立入検査（桜町病院）	東京都福祉保健局医療政策部医療安全課
平成 28 年 11 月 25 日	平成 28 年度社会福祉法人等指導監査（富士聖ヨハネ学園）	山梨県福祉保健部監査指導室

4) 調査等

提出年月	提出内容	提出先
平成 28 年 5 月	障害者雇用状況報告書	独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
平成 28 年 6 月	社会福祉法人調査票現況報告書	東京都福祉保健局指導監査部指導調整課指導調整係
平成 28 年 7 月	事業報告書	独立行政法人 福祉医療機構
平成 28 年 7 月	省エネ法改正に伴う特定事業者の中長期計画書、定期報告書	関東経済産業局 関東信越厚生局

二 事業経営

1. 障害福祉部門

【 総 括 】

障害福祉部門では、法人の理念に則した経営のために、利用率の向上と利用者のニーズにむきあった支援体制の構築に取り組んだ。

各事業所では、計画にそって利用率の向上に取り組み、前年より改善されてきている。障害福祉部門のサービスの利用を希望する方は多く、受け入れ体制の整備から、すぐに利用できないケースもみられた。その大きな要因は、職員の確保、育成であり、年間を通しての課題であった。

支援面では、法人の理念に則した人権を大切にしたい取り組みを各事業所で実施するとともに、支援の困難な方への取り組みを行った。

◆障害福祉部門 山梨事業所

I 富士聖ヨハネ学園 (施設入所支援事業・短期入所事業・生活介護事業)

【平成 28 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (H28度)	利用率 (H27度)	利用率 (H26度)
生活介護 H28.4～	154人	144人	144人	92.8%	90.9%	86.8%
施設入所支援 H28.4～	122人	120人	120人	98.3%	95.3%	88.5%
短期入所 H28.4～	6人	—	4人	57.2%	61.5%	72.5%

平均年齢 46.5歳（最高 79歳、最低 17歳）

男女比率 74名（男子）：68（女子） 52：48

平均在所期間 21.0年（最長 43.8年）

年間入所 8名 年間退所 4名

【職 員】

	平成 28 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 29 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
園長	1		1							1		1
副園長	1		1							1		1
生活支援員	69	28	97	1				1		70	28	98
事務員	5	1	6		1				1	4	1	5
栄養士・調理員	5	9	14				1		1	5	8	13
設備等	2	5	7							2	5	7
医師		1	1								1	1
看護師	2	3	5		1				1	1	3	4
医療事務員		1	1			1		1			2	2
合計	85	48	133	1	2	1	1	2	3	84	48	132

【施設運営状況】

加齢にともなう病気により 4 名の入所者がお亡くなりになる。保護者からの依頼を受け、学園としてできる限り最後の暮らしをささえるために取り組んだ。これまで退所者が 10 年に 1 度ぐらいの頻度であったが、ここ 3 年間は毎年数名の利用者さんがお亡くなりになっている。

入所定員を満たす運営が、支援や職員の処遇のすべてに波及するため定員を満たした運営は重要である。迅速に入所をすすめるために入退所検討委員会を設け対応している。現状として、入所の募集をするとすぐに入所の依頼が、保護者や福祉事務所からよせられる状況である。地域移行の取り組みの大切さとともに、入所施設の担う使命はまだ重いものがある。入所の利用率は、昨年より改善され、平成 29 年度の収入に反映されることとなる。

しかしながら入所をすすめる上で職員の確保が大きな課題になっている。職員の確保ができずに、入所を希望する方を受け入れることが早急にできない状況があった。傾向として離職率は少なく数%であるが、新たに入職する方の確保が困難になっている。採用への取り組みは最優先課題になっている。

【利用者支援状況】

退所と入所は、高齢者の支援と若く入所される方の支援を再構築する機会になってきている。安心、安全から「豊かな暮らし」の構築に向き合うことが課題である。

学園として取り組む中心の課題は、「虐待防止と権利擁護」であり、昨年度は虐待防止委員会を立ち上げ、虐待防止マニュアルを作成し、学習会や研修会を実施した。また「暮らしをささえる」ことに向き合う学園職員の姿勢として、日々の利用者、保護者からの相談、要望、苦情等への取り組みを強化した。

【施設整備状況】

学園の改築が終わり、この 1 年は改築による施設をどのように支援と結び付けて活用するかが課題であった。少しずつであるが本館施設の運用がかたちになってきている。大きな整備面での購入や工事の必要な案件はなかった。今後学園敷地内の建物の活用と整備が課題である。

【教育研修】

研修名	月日	場所	出席者
新任職員研修(法人の理念・歴史)	4月1日	法人本部等	8名
新任職員研修(健康観察)	4月7日	学園	8名
摂食嚥下の基礎知識	6月11日	東社協 飯田橋	6名
福島原町ベース学習会	6月19日20日	福島県原町ベース	3名
カトリック施設児童全国研修会	6月21日22日	仙台市	3名
普通救命講習(北麓センターと合同)	7月9日	富士北麓聖ヨハネ支援センター	7名
関東地区職員研修大会	7月14日15日	大宮市	2名
自閉症の理解	8月3日	甲府青少年センター	5名
虐待防止・人権擁護指導者養成研修	8月15日16日	品川区キュリアン	1名
社会福祉法人制度改革の研修会	8月26日	甲府青少年センター	8名
強度行動障害者支援者養成研修	第1~4回	甲府青少年センター	16名
相談支援従事者研修	10月4日	甲府青少年センター	7名
ハンセン氏病の理解	11月20日	清瀬市資料館	7名
摂食嚥下・区分食研修(学園講師派遣)	11月21日	富士ふれあいセンター	8名
小金井研修(聖霊修道会)	11月23日24日	小金井市マリア館	9名
地域連携医療について(法人内研修)	11月30日	戸塚ホール	11名
感染症予防研修	12月8日	学園	26名
AED研修	12月16日	学園	16名
難しい職場の人間関係(法人研修)	1月18日	遠隔テレビ使用	20名
援助者を援助する	2月3日	甲府青少年センター	14名

※その他学園全体において計 48 回の研修 延べ外部研修 112 名、園内研修 223 名参加

※e ラーニング 法人研修 コンプライアンス等

◎富士聖ヨハネ学園 診療所

【施設運営状況】

学園利用者の健康診断及び健康管理に重点的に取り組んだ。診療所の基本業務と看護にかかわる相談に取り組んだ。

【利用者支援状況】

日々の健康観察等により利用者が入院する頻度を減少することにつながっていた。

【施設整備状況】

電子請求の運用を開始した。

II 山梨地区グループホーム（共同生活援助 介護サービス包括型）

【平成 28 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H28度)	利用率(H27度)	利用率(H26度)
河口湖聖ヨハネ ケアビレッジ	11人	10.1人	92.6%	91.6%	96.4%
明見聖ヨハネ ケアビレッジ	7人	6.8人	98.2%	97.8%	98.2%
城山聖ヨハネ ケアビレッジ	7人	6.9人	99.9%	97.4%	97.2%
忍野聖ヨハネ ケアビレッジ	7人	6.9人	99.7%	99.8%	99.5%

平均年齢 50歳（最高 69歳、最低 23歳）
 男女比率 14名（男性）： 16名（女性）
 平均在所期間 8年（最長 9.8年）
 年間入所 2名 年間退所 2名

【職 員】

	平成 28 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 29 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	6	11	17							6	11	17
合計	8	11	19							8	11	19

【施設運営状況】

明見・忍野・城山各ケアビレッジ（以下 CV）は定員が年間通じて充足していたが、河口湖 CV においては利用者 1 名の死亡や、自立された方もおり、年間を通じての充足には至らなかった。

日常的な健康管理、医療ニーズへの適切な対応がとれる等の体制を整備している事業所に加算される「医療連携体制加算（V）」を申請・受理された。

また消防署立ち合いの避難訓練の実施、夜間緊急時の連絡体制の構築等安全面への取り組みを行った。

【利用者支援状況】

「医療連携体制加算」による週1回の看護師の訪問、バイタルチェックにより利用者の健康状態の把握に努めている。

個別外出の機会を増やし、利用者の生活の充実を図っている。

【施設整備状況】

城山 CV において柱の補強工事に伴い部屋の改築、フロアの張替工事を家主負担で行った。

【教育研修】

研修名	月日	場所	出席者
山梨県福祉サービス苦情解決事業	8月2日	山梨県自治会館	1名
OJTリーダー研修	8月10日	地場産業センター	1名
モチベーションアップ研修	9月8日	地場産業センター	1名
「普通に生きる」映画会とシンポジウム	11月5日	忍野ふれあいホール	係長他
感染症への対応	12月8日	富士聖ヨハネ学園	数名
知的障害者福祉業務従事者研修 「親亡き後の障害者支援」	12月9日	県立文学館	1名
5施設合同研修会	2月3日	甲州市民会館	数名

Ⅲ 富士北麓聖ヨハネ支援センター（生活介護/就労継続支援 B 型/短期入所）

【平成 28 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率 (H28 度)	利用率 (H27 度)	利用率 (H26 度)
就労継続 B 型	15 人	9.5 人	63.7%	67.6%	77.0%
生活介護	35 人	19.3 人	55.2%	48.7%	41.4%
短期入所	3 人	2.4 人	80.1%	65.4%	24.4%

平均年齢 35 歳（最高 62 歳 最低 19 歳）
 男女比率 22 名（男子）： 14 名（女子）
 平均在所期間 2.4 年（最長 3 年）
 年間入所 7 名 年間退所 1 名

【職 員】

	平成 28 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						平成 29 年 3 月 31 日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	9	3	12							9	3	12
看護師	1		1	1				1		2		2
調理員		1	1								1	1
合計	12	4	16	1				1		13	4	17

【施設運営状況】

開設から3年目を迎え、契約者数は増えているが、利用率が上昇していない。その理由は、支援困難なケース（通所することが困難である）があることと、他の事業所との併用の方がいるためである。また、就労継続支援B型の利用率の減少は、障害支援区分の見直しに伴い、生活介護に移った利用者があるためである。但し、支援学校の進路希望調査によると次年度（平成29年度）は7～8人程度の利用希望者がおり、今後は利用率の上昇が見込まれる。

懸案であった嘱託医が選任され毎月1回来訪し、利用者の定期診療・健康観察を行っている。また緊急時の診療にも対応している。

昨年に引き続き公開学習会「普通生きる」映画会とシンポジウムを開催し、100名以上の方が忍野ふれあいホールに集い地域福祉の向上に寄与した。

就労継続支援B型にあっては、作業種目の増加に伴い、作業収益も向上し、利用者の作業工賃に反映している。

【利用者支援状況】

支援学校を登校拒否になり、当事業所の「生活介護」を利用していた利用者が、当事業所と学校とが連携を密にとることで、登校できるようになり、一年遅れで卒業することが出来た。

困難ケースについては「常に寄り添う」ことをモットーに支援をするよう統一を図っている。

お亡くなりになられた利用者の葬儀ミサを当事業所において行い、利用者みんな（一部保護者の方も出席）で送ることができた。

【施設整備状況】

給食運搬用車両の購入

陶芸窯設置用中古プレハブの購入・設置

【教育研修】

研修名	月日	場所	出席者
防災士資格取得研修講座	6月4.5日	グランパークプラザ田町	1名
精神障害者の地域生活支援について	6月13日	富士ふれあいセンター	1名
子どもを虐待する親・家族の心理的社会的特徴	6月21日	コラニー文化ホール	係長他
普通救命講習	7月9日	富士北麓聖ヨハネ支援センター	全職員
OJTリーダー研修	8月10日	地場産業センター	1名
6次産業化の展開	8月3日	ブライダルヴィレッジミラブル	1名
モチベーションアップ研修	9月8日	地場産業センター	1名
親亡き後のライフプラン	9月19日	富士聖ヨハネ学園	係長他
食べるってということ	10月17日	ぴゅあ総合	数名
「普通生きる」映画会とシンポジウム	11月5日	忍野ふれあいホール	全職員
食事に関する基礎的なアプローチを学ぶ	11月21日	富士ふれあいセンター	1名
感染症への対応	12月8日	富士聖ヨハネ学園	1名
山梨県就労支援事業所ネットワーク研修会	2月2日	県防災新館	1名
5施設合同研修会	2月3日	甲州市民会館	数名
山梨県虐待防止・権利擁護実施研修	2月16日	ぴゅあ総合	数名
水害・土砂災害への備えに関する要配慮者利用施設の管理者向け説明会	2月14日	県立文学館	1名
平成28年地域リハビリテーション研修	2月24日	県立文学館	1名

◎さぼーとヨハネ(相談支援事業)

【施設運営状況】

28年度に富士北麓地域に「基幹相談支援センター」が開設される予定であったが、一年先延ばしになった。更には相談支援事業所が2か所閉所したために、当事業所相談員は更に多くのケースを受け持つことになり、大変苦勞した。

計画相談にあっては、「富士聖ヨハネ学園」の入所者以外にも、新たに薬物依存症の精神障害者の自立訓練施設が市内にオープンしたことにより、彼らの計画相談を引き受けることとなった。これまでの知的障害者とは異なる相談・計画内容の為、担当者は戸惑いもあったが勉強にもなった。

【利用者支援状況】

薬物依存症者の計画相談を行うことで、薬物依存症者の理解につなげることが出来た。そのため、富士北麓及び東部地域の各事業所及び行政機関にも薬物依存症者の理解を深めてもらえる様、当事者の講演会を計画し実施した。当事者・参加者共に好評であった。

強度の行動障害のある知的障害児（支援学校高等部2年生の生徒）の支援を支援学校と連携しながら行っている。

【施設整備状況】

なし

◆障害福祉部門 小金井事業所

IV 小金井聖ヨハネ支援センター (生活介護事業・就労移行支援事業・就労継続支援B型事業)

【平成28年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (H28度)	利用率 (H27度)	利用率 (H26度)
生活介護	22人	12人	10.8人	49.5%	29.9%	—
就労移行	10人	12人	11.4人	113.7%	60.9%	—
就労継続B型	20人	16人	13.6人	68.0%	59.6%	—

平均年齢 30.3歳 (最高61歳 最低19歳)

男女比率 19名(男子)32歳 : 21名(女子)29歳

平均在所期間 2.4年(最長5年3か月)

年間入所 11名 年間退所 3名

【職員】

	平成28年4月1日 の職員数			年間退任・就任						平成29年3月31日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	6	14	20			3	3	3	3	6	14	20
事務員	2	1	3							2	1	3
栄養士・ 調理員	1	1	2							1	1	2
医師		1	1								1	1
看護師		1	1								1	1
合計	11	18	29			3	3	3	3	11	18	29

【施設運営状況】

就労移行支援事業所は全国に約3100ヶ所、その内、社会福祉法人が運営しているのが約半数の1500ヶ所強。就労実績ゼロの事業所が平成26年度で35.1%。数にして約530ヶ所。平成22年度からデータがあり、22年度は実績ゼロの事業所が42.2%、徐々に実績を上げている事業所は増えたがその後も実績ゼロの事業者が35%前後で推移している。そんな状況の中でも小金井聖ヨハネ支援センターは少数ではあるが、現場職員の努力により、毎年、就労実績を上げている。就労実績加算も受けており安定した運営に繋がっている。厳格な法令順守により、新卒者の就労継続B型の利用はしていただいているが、事前評価が終わっている地域からの希望者を1名受け入れた。近隣の特別支援学校はすべて関わっており、筑波大学附属大塚特別支援学校・学芸大学附属特別支援学校の独立行政法人国立大学機構立の支援学校、私立の武蔵野東学園、生活介護を始めて取り組みが浸透・評価されたお陰で身体や聾学校の実習生も受け入れ、実習生受け入れは1年生の職場・事業所体験、2・3年生の実習生を28年度は延べ21名受け入れた。就労移行以外、定員には達していないが、保護者の希望は毎年あり、予定通り、毎年4~6人受け入れているため2年後には定員に達すると予測される。

【利用者支援状況】

前身のワークセンターから数え、平成 22 年度から就労実績があり、平成 23 年度を除き、毎年、2 名以上の就労者を出している。大学生を含め、今は売り手市場といわれているが、このことは障害者も同様である。平成 30 年度には精神障害者の雇用も義務化されることから、また、雇用率引き上げの動きが見られることから大企業が早めに動き、良い人材を確保しようと言うことで精神障害者の雇用は群を抜いて伸びている。センターの実績として、平成 28 年度は障害者雇用は 3 名。その内訳は 1 名は昨年 7 月に株式会社西松屋に合格し店舗補助員として働き、もう 1 名は昨年 10 月に社会福祉法人浴光会特別養護老人ホームかがやきに就職、室内外の清掃作業員、もう 1 名は株式会社セガエンターテインメント キッズららぽーと立川で食器洗浄員として働いている。その内、1 名が離職されて、違う職場への就職を目指して練習中だが、2 名は定着し現在も働いている。職場実習は小金井市就労支援センターより声を掛けて頂き、小金井市役所へ 3 日～5 日市役所別棟等で実習を行った。企業面接は 3 名の利用者が 6 社の企業の面接を受け、3 名とも採用された。体験として昨年度、東京体育館の合同面接会へ行き、合同面接会の雰囲気だけは味わえた。企業見学は、三鷹の NTT クラリティに利用者 2 名と付添 2 名で行き、現場で働く障害者の方を間近で見てきた。日頃の活動としては桜町病院洗浄室には就労移行の利用者を中心に一日に 5 名程度の利用者が勤務し。桜町高齢者センターには一日に 3 名の利用者と付添い職員が入り、桜町病院職員食堂には午前中の盛付け・洗浄に 2 名、午後からの片付け・清掃に 3 名の利用者が入っている。作業種は全部で 15 種類あるが、外作業・ダイナミックな作業が得意な利用者も室内作業・細かな作業が得意な利用者誰もが利用できる施設というところがストロングポイントだと考えている。

生活介護は、午前・午後と 4 時限体制で行い、午前は外作業（腐葉土作り・公園清掃・センター前掃き掃除）と中作業（陶芸・ロザリオ作り・織物等々）、午後は体力保持の意味から 5km 程度の散歩を取り入れ、音楽（月・水・金の週 3 日音楽教師の免許を持った職員が音楽療法を行っている。）・絵画等の芸術活動をそれぞれの利用者が健康で幸せになれるように取り組んでいる。

【施設整備状況】

小金井市より市立第三小学校の福祉避難所（二次避難所）として指定を受ける。それに伴い、防災倉庫を二棟設置する。

V 小金井聖ヨハネワークセンター (就労継続支援B型)

【平成 28 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (H28度)	利用率 (H27度)	利用率 (H26度)
就労継続B型	20人	18人	15.7人	78.6%	48.1%	76.7%

平均年齢 40歳(最高74歳 最低22歳)
 男女比率 13名(男子) : 5名(女子)
 平均在所期間 1.6年(最長4.7年)
 年間入所 8名 年間退所 4名

【職 員】

	平成28年4月1日 の職員数			年間退任・就任						平成29年3月31日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
所長	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	1	5	6							1	5	6
調理員		1	1			1		1			2	2
合計	3	6	9			1		1		3	7	10

【施設運営状況】

2016年度は、東京地区中期行動計画(H24～H28年度)の最終年としてこれまでの計画取り組みの仕上げの年となった。ワークセンターは梶野町センターへの利用者の移動により利用者が半減したことを機会に第三者評価結果に基づき次のようなサービスの見直しと改善に取り組みんだ。
 ①通常の利用体制にもどし利用率アップを図る ②利用者の積極的な受け入れ ③利用者就労支援実績を上げる ④受注仕事の開拓・利用者の工賃アップ ⑤作業環境の改善、安心して働きやすい環境づくり ⑥職員の確保育成、研修 ⑥苦情・事故の予防、適切な対応 など確実に成果が出ており、利用者と職員の努力が実った一年であった。

他方、利用者の急増により仕事の確保、受注仕事の開拓など営業にも積極的に取り組み、新たな取引先確保や受注枠の拡大は職員の努力の成果である。就労収益が増えたので利用者人数が増えた分も含め全員に工賃の支給はできたものの、個々の工賃アップ目標額の達成は今後の課題である。職員の状況は、サービス管理者研修修了者1名、介護福祉士資格取得1名、調理員パート1名、支援員フルタイムパート1名を採用し、利用者支援の体制が強化された。事業所の収支状況は、前年同月対比約150%であり大幅に改善につながった。

苦情・事故報告は、第三者委員会に年二回報告書を提出しており、適切な対応と苦情・事故等の予防に努めている。

【利用者支援状況】

・新規受け入れ人数(H28.4～H29.3) 10名。

H28.3月12名 → 新規10名、就職退所者4名、年度末在籍者18名

地域の小金井市就労支援センターや小金井市障害者福祉センターなどと連携し受入れ後の相談調整に協働が活きている。

・利用実績：年間利用延べ人数 4,039人(利用率78.6%) 前年対比 161%
 (2015年 2015人 利用率48.1%)

・職場実習 小金井生活実習所実習(H28/11/7～11/11 計5日間)
 小金井市役所内実習(H28/11/30～12/3 計3日間)

- ・ハローワーク立川での求人検索、就労相談
- ・市内短時間アルバイト 読売センター小金井販売所
- ・ワークセンターにて制作した刺繍バック等の販売（桜町病院バザー、小金井市障害者週間イベント、教会バザー、tetote サイト内でのネット販売）にも力を入れ収入増に努める
- ・利用者就労支援 就労実績 4 名（清掃業務・飲食店調理賄い・就労 A 型事業所）

就労先

- ・株式会社ボイス（清掃業務：マックスバリュ田無芝久保店）
- ・株式会社ダスキンヘルスケア（清掃業務：一橋病院）
- ・鳥貴族（飲食店：東小金井店）
- ・一般社団法人明生会 ワクわーく（就労継続 A 型事業所）

【施設整備状況】

- ・食事提供加算の導入 小金井支援センターの協力により、調理員の配置、台所の設備改善などを行い、これまでの弁当からセンターの温かい昼食提供となった。
- ・作業環境の整備 作業台入替、個別鍵付きロッカーの設置、備品・荷物の整理などを行い、混雑解消、事故や盗難紛失などを予防し、安心して働きやすい”職場”づくりを行った。
- ・余暇活動備品購入 祝日等の余暇活動用にバーベキューセットを購入し野川公園などで家族も交えた野外活動で活用している。
- ・防災用品の購入 防災用品として利用者・職員用に防災ヘルメットを人数分出入りに配備した。

VI 小金井聖ヨハネケアビレッジ（7ユニット）

小金井聖ヨハネ短期入所

（共同生活援助事業・短期入所事業）

【平成 28 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (H28度)	利用率 (H27度)	利用率 (H26度)
本町1	7人	7人	7人	100%	100%	100%
本町2	7人	7人	7人	100%	100%	100%
貫井北町1	3人	3人	3人	100%	100%	100%
貫井北町2	3人	3人	3人	100%	100%	100%
貫井北町3	2人	2人	2人	100%	100%	100%
中町	6人	5人	6人	100%	100%	100%
梶野町	7人	7人	7人	100%	100%	100%
短期入所	4人	—	1.4人	36%	14%	—

平均年齢 51 歳（最高 74 歳、最低 22 歳）
 男女比率 18 名（男性）： 16 名（女性）
 平均在所期間 8.1 年（最長 13 年）
 年間入所 0 名 年間退所 0 名

【職 員】

	平成 28 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 29 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス 管理責任者	2		2							2		2
世話人 生活支援員	8	23	31			5	2	5	2	8	26	34
合計	11	23	34			5	2	5	2	11	26	37

【施設運営状況】

小金井聖ヨハネケアビレッジ7箇所中1箇所中町ユニットのみ定員6名のところ5名の入居であるが、その他の6箇所については出入りなく定員での落ち着いた運営がされた。貫井北町の利用者1名は年度初めに作業所にて転倒し腕の骨折後自宅療養が続いていたが年度末にはケアビレッジの生活に戻ることができている。

短期入所に関しては契約者が着々と増えており定期的に利用して頂いている。その他急な利用者への対応は男性利用者についてはスムーズに行えているが女性利用者に対しては職員確保の都合上、要望に応えられないこともあった。

防災訓練に関しては各所にて消防署立会いの避難訓練や地域のグループホームと連携した防災町歩き訓練、町内会の防災訓練へも積極的に参加できた。

【利用者支援状況】

20代～70代という幅のある年齢の利用者に対し、利用者の意向に沿った支援を行ってきた。個を大切にされた支援を心がけ取り組んできたが行き届かないところもある為、引き続き利用者へ潤いのある生活をして頂けるよう職員の資質向上も含め、取り組んでゆく。また生活の充実の為、余暇活動や休日の過ごし方については本人の要望を聞きながら移動支援の利用や、寮の行事など利用者の意向で行っている。

健康管理については日々の体調管理に努めてきたが、特に高齢化に対する取り組みの必要性を感じている。数年前には元気であった利用者が体力的にも機能的にも目に見えて落ちている事に伴い、全体的に通院も増加した。

【施設整備状況】

本町ユニットは立ち上げから13年が経過し修理の必要な箇所が増えている。エアコンや換気扇の不具合がありその都度修理・清掃・点検をし、また次年度に向けて修繕箇所の検討を行った。中町ユニットについては玄関扉の不具合による修理・ガス器具の交換・エアコン洗浄等々をオーナーの方でやっただいている。建物の老朽化により耐震性が危ぶまれているが手付かずの状態である為、耐震補強もしくは建て替えについて考えねばならない。梶野町ユニットについては建物的にはまだ2年と新しいので問題はないが、風呂場の扉が一枚扉で介助する上での不具合や危険性もあり折り戸にする工事を行った。

VII ふらっとヨハネ（相談支援事業）

【職 員】

	平成 28 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 29 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
相談支援員	1		1							1		1
合計	2		2							2		2

【施設運営状況】

「障害者地域生活支援センター」の各事業所を利用されている方を中心に「サービス利用計画」の作成とモニタリングを実施した。また、小金井市・清瀬市周辺の在宅者からの作成依頼を受けて「訪問・面談」を重ねて「利用計画」の作成をした。依頼は「知的・身体・精神」のそれぞれの方からあるが専門性に欠ける場合においては小金井市の「基幹相談支援センター」と共同し、助言をもらいながら対応した。

【利用者支援状況】

小金井市の在宅利用者で保護者が病気で本人の介護や養育が難しい為、多数の短期入所事業所を探し転々としながら利用を続けていたところ富士聖ヨハネ学園に短期入所をする機会があり、体験すると本人も家族も是非入所したいという希望をもらい、相談支援からの入所という運びになった。スムーズな受け入れ態勢で入所が決まり富士聖ヨハネ学園と連携できた。また、これから「一人で暮らしたい」という方の支援や現在、「一人暮らしの方」の支援を利用計画を作成しながら行ってきた。男性利用者の場合は支援員が同性なのでアパートの片づけなどの生活支援が手伝えるが女性利用者については難しいので市のケースワーカーの協力をもらいながら支援してきた。今後も女性利用者の依頼は多いと思われるので女性スタッフが必要不可欠と思われる。

【施設整備状況】

2階事務室にエアコンを設置した。

VIII 清瀬聖ヨハネ支援センター（生活介護事業）

【平成 28 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (H28度)	利用率 (H27度)	利用率 (H26度)
生活介護	20人	24人	21.2人	106%	99%	89%

平均年齢 43歳（最高 71歳 最低 19歳）
 男女比率 12名（男子）：12名（女子）
 平均在所期間 3.2年（最長 3.6年）
 年間入所 2名 年間退所 1名

【職 員】

	平成 28 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 29 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
所長	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	2	4	6			4	1	4	1	2	7	9
調理員		1	1								1	1
医師		1	1								1	1
看護師		1	1								1	1
合計	4	7	11			4	1	4	1	4	10	14

【施設運営状況】

平成 28 年度、特別支援学校高等部卒業生を 2 名迎え入れたが、おひとりは年度中に医療的ケアが必要となったため、入院を経て他の事業所に移られた。結果、年度末現員 23 名となり定員を 3 名超えることとなったが、基準では 25 名まで可能なため法定の範囲である。但し、富士聖ヨハネ学園の地域移行を主とした開設であったことから清瀬市民が 4 名と少なく、地域に根差した施設ということを考えると、今後は清瀬市民のみを受け入れていく事としたい。また、定員規模は介護給付費収入と密接な関係にあるため、今後は入所状況を勘案しながら 30 名への定員変更を検討することになる。

また、今年度初めての清瀬地区合同防災訓練を行った。下清戸、中清戸、支援センターの利用者・職員が消防署職員立会いの下、中清戸ユニットから下清戸ユニットまで非難し、炊き出しと放水訓練を行い、消防署員の講評をいただいた。

【利用者支援状況】

開設 3 年を過ぎ、支援の形が定着してきた。また、外部との交流が増えて外に出る機会も多くなり、施設内外での支援が広がる中で利用者の意思を尊重した活動が提供できるようになってきた。モットーは「利用者本位」で、利用者が楽しく明日も行きたいと思える場所にする事であるが、それについては及第点がつけられる。

しかし、利用者の年齢が 18 歳～71 歳、障害の程度が重度から軽度と幅広いことを考えると、より一層の一人一人に寄り添った支援が必要となるため、今後は個別支援計画の質の向上と計画に基づく支援の充実を図ることに努めたい。また、年 2 回行っている三者面談で保護者等との相互理解・連携も深めていきたい。

【施設整備状況】

ホップコーン製造機の購入、スカットボール用具の購入
 厨房職員の業務負担軽減のための食器洗浄機の導入

IX 清瀬聖ヨハネケアビレッジ (4ユニット)

清瀬聖ヨハネ短期入所

(共同生活援助事業・短期入所事業)

【平成 28 年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (H28度)	利用率 (H27度)	利用率 (H26度)
下清戸1	7人	7人	7人	100%	100%	100%
下清戸2	7人	7人	7人	100%	100%	100%
中清戸1	7人	7人	7人	100%	100%	100%
中清戸2	7人	7人	7人	100%	100%	100%
短期入所	2人	—	0.3人	17%	17%	—

平均年齢 47歳 (最高 71歳、最低 26歳)
 男女比率 14名 (男性) : 14名 (女性)
 平均在所期間 6.3年 (最長 11年)
 年間入所 0名 年間退所 0名

【職 員】

	平成 28 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 29 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
世話人 生活支援員	7	17	24		1	4	3	4	4	6	18	24
合計	9	17	26		1	4	3	4	4	8	18	26

【施設運営状況】

平成 28 年度は 4 か所とも利用者の入れ替わりがなく落ち着いた運営であった。また、清瀬聖ヨハネケアビレッジは重度利用者が多いため収入面でも安定した運営となっている。但し、下清戸ユニットが開設 10 年を過ぎ、建物各所に経年劣化による損傷が目立ち補修が必要になってきた。今年度は 1 階の厨房設備の漏水修理等、処々の補修を行った。次年度もエアコン等の各所補修を予定しており、今後は補修等の費用が増えてくると思われる。中清戸ユニットについては開設 3 年目を過ぎたところであり目立った補修はない。

また、今年度初めての清瀬地区合同防災訓練を行った。下清戸、中清戸、支援センターの利用者・職員が消防署職員立会いの下、中清戸ユニットから下清戸ユニットまで非難し、炊き出しと放水訓練を行い、消防署員の講評をいただいた。

平成 27 年 10 月に定員 2 名で開始した下清戸ユニットに併設の短期入所事業は、徐々に認知度が高まって利用者が増えているが、現状は定期的な利用者が多い。

【利用者支援状況】

休日等の過ごし方については、帰宅される方、ガイドヘルパーを利用して外出する方等、それぞれの過ごし方が定着してきた。今後は、ヘルパー利用時においてご本人の楽しみや可能性が広がるような支援及びグループホーム内での楽しみ方など、生活の豊かさを実感できるような支援を行っていきたい。私物の整理整頓や衛生管理等の支援に創意工夫の余地があるため努力したい。健康管理については、20代から70代までの利用者が生活をしている中、早期発見、早期治療の健康管理に努めた。また、高齢病弱になってもグループホームでの生活を望む人に対し、グループホーム機能は脆弱ではあるものの、要望を受け止められるような支援体制の構築を図りたい。

清瀬市内の他法人に呼びかけ、グループホーム連絡協議会を立ち上げた。まだ職員段階の交流であるが、次年度は利用者に広げていきたい。

【施設整備状況】

下清戸ユニット 厨房漏水等水回り関連補修、換気扇補修

■教育研修(小金井地区事業所)

研修名	月日	場所	出席者
聖ヨハネ会平成28年度新規入職者研修	4月1日	戸塚ホール	4名
東社協 平成28年度採用時合同研修	6月1～2日	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
メンタルヘルス研修	6月4日	飯田橋 セントラルプラザ	1名
摂食嚥下の基礎知識	6月11日	飯田橋 セントラルプラザ	1名
東社協 新任研修第1回目	6月17～18日	いこいの村あしがら	2名
第1回知的障害者GH世話人養成研修 新任職員	7月19日	飯田橋 研究社英語センター	1名
自閉症スペクトラム障害の理解と支援	7月23日	飯田橋 研究社英語センター	2名
摂食・嚥下の基礎知識について	8月23日	東京都立府中けやきの森学園	1名
強度行動障害支援アドバンス研修 医療研修	8月25日	飯田橋 セントラルプラザ	3名
法人合同研修 人材マネジメント	8月31日	戸塚ホール	1名
行動障害のある利用者への支援について	9月7日	飯田橋 セントラルプラザ	1名
支援の原点とこれからの福祉	9月25日	新宿 シャロームみなみ風	1名
合理的配慮・意思決定支援について	9月29日	飯田橋 セントラルプラザ	1名
東社協 新任研修第2回目	9月30日	飯田橋 リロの会議室	2名
防災計画 ～見直そう災害に備えて	10月1日	飯田橋 セントラルプラザ	1名
東社協 中堅研修	10月3日	飯田橋 セントラルプラザ	1名
東京都 福祉事業所のための研修体系確立・推進	10月4～5日	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
関東地区知的障害関係施設種別代表者会議	10月31日	東京ベイ幕張	1名
東社協 高齢化	11月5日	飯田橋 セントラルプラザ	1名
東社協 三年目職員研修	11月25日	飯田橋 研究社英語センター	1名
東京都障害者支援施設等人材育成事業	12月1～19日	友愛学園成人部	1名
コミュニケーション推進体験ワークショップ研修	12月1日	飯田橋 セントラルプラザ	1名
権利擁護～よりよい暮らしを支えるために～	12月13日	福祉プラザ台東清峰会浅草ほうらい	1名
平成28年度第2回東京都強度行動障害支援者養成研修	12月21～23日	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
相談支援従事者初任者研修講義部分	1月5～6日	練馬文化センター大ホール	1名
権利擁護～よりよい暮らしを支えるために～	1月19日	東京都障害者福祉会館	1名
発達障害のある人への理解と対応	1月28日	都庁議会議事堂都民ホール	1名
東社協 新任研修第3回目	2月13日	飯田橋 研究社英語センター	2名
権利擁護～よりよい暮らしを支えるために～	2月15日	障害者支援施設 たんぼぼ	1名
豊かなライフステージを考える	2月19日	ハイライフプラザいたばし	1名
平成28年度第2回東京都サービス管理責任者研修	2月23日	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
在宅における栄養ケアABC	3月3日	東京医科歯科大学	1名
小児期から成人期ダウン症者の健康管理について	3月4日	新宿 リロの会議室	1名

■教育研修(清瀬地区事業所)

研修名	月日	場所	出席者
聖ヨハネ会平成28年度新規入職者研修	4月1日	戸塚ホール	3名
メンタルヘルス研修	6月4日	飯田橋 セントラルプラザ	2名
東社協 新任研修第1回目	6月17～18日	いこいの村あしがら	2名
第1回知的障害者GH世話人養成研修 新任職員	7月19日	飯田橋 研究社英語センター	1名
自閉症スペクトラム障害の理解と支援	7月23日	飯田橋 研究社英語センター	2名
東京都 社会福祉事業従事者人権研修	7月29日	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
強度行動障害支援アドバンス研修 医療研修	8月25日	飯田橋 セントラルプラザ	1名
法人合同研修 人材マネジメント	8月31日	戸塚ホール	2名
行動障害のある利用者への支援について	9月7日	飯田橋 セントラルプラザ	2名
支援の原点とこれからの福祉	9月25日	新宿 シャロームみなみ風	1名
合理的配慮・意思決定支援について	9月29日	飯田橋 セントラルプラザ	1名
東社協 新任研修第2回目	9月30日	飯田橋 リロの会議室	2名
東社協 中堅研修	10月3日	飯田橋 セントラルプラザ	2名
食品衛生実務講習会	10月13日	東久留米市生涯学習センター	1名
東社協 高齢化	11月5日	飯田橋 セントラルプラザ	3名
コミュニケーション推進体験ワークショップ研修	12月1日	飯田橋 セントラルプラザ	1名
権利擁護～よりよい暮らしを支えるために～	12月13日	福祉プラザ台東清峰会浅草ほうらい	1名
平成28年度第2回東京都強度行動障害支援者養成研修	12月21～23日	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
相談支援従事者初任者研修講義部分	1月5～6日	練馬文化センター大ホール	1名
発達障害のある人への理解と対応	1月28日	都庁議会議事堂都民ホール	1名
文化芸術活動	1月28日	飯田橋 セントラルプラザ	3名
東社協 新任研修第3回目	2月13日	飯田橋 研究社英語センター	2名
権利擁護～よりよい暮らしを支えるために～	2月15日	障害者支援施設 たんぼぼ	2名
豊かなライフステージを考える	2月19日	ハイライフプラザいたばし	2名
平成28年度第2回東京都サービス管理責任者研修	2月23日	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
小児期から成人期ダウン症者の健康管理について	3月4日	新宿 リロの会議室	2名
支援の原点とこれからの福祉	3月11日	飯田橋 セントラルプラザ	1名

2. 高齢福祉部門

【 総 括 】

創立 30 周年記念事業について

2016 年 4 月、桜町聖ヨハネホームは、創立 30 周年を迎えた。

ヨハネ会高齢福祉部門は、部門全体でこの 2016 年度を通して創立 30 周年記念事業を実施することを経営会議で決定し、①創立 30 周年記念祝会開催 ②創立 30 周年記念誌発行 ③永年勤続表彰と規程策定 の大きく 3 つの計画を立案し無事実施することが出来た。創立記念祝会は、9 月 22 日に武蔵野スイングホールで、西岡真一郎小金井市長、西岡 修東京都高齢福祉施設協議会会長を始め来賓の皆様やボランティア、地域の皆様、教会関係の皆様にご感謝し共に祝う会となった。創立 30 周年記念誌は、全 68 ページからなるカラー写真刷りで 9 月に完成しお世話になっている方々へお渡しすることが出来た。また創立 30 周年を機に、常勤職員の永年勤続表彰を規定し、職員に感謝の意を表すとともに今後も継続し表彰することが出来るしくみが出来た。

中期経営計画について

法人本部と法人の各部門は、2017 年度（平成 29 年度）～2019 年度（平成 31 年度）の次期（第三期）中期経営計画を策定することとなった。ヨハネ会高齢福祉部門のこれまで第一期・第二期の中期経営計画を見ると、『ヨハネホームの縮小化と第二特養への進出検討』『新規収益部門の開発』『理念に基づく人材育成』などが取り上げられていたが、ヨハネホームの財務状況が平成 20 年度（2008）以降、悪化したことから、法人本部の協力のもと、平成 26 年度（2014）から財務改善プロジェクトチームを立ち上げ、『財務改善』を最優先・最重要で取り上げることとなり、部門全体でこれに集中し取り組んでいった。職員全体会で状況を説明し、収入増と支出削減策を基本に、サービスの利用率を最大限に挙げることや人件費見直しなど厳しい改革に着手した。この結果、平成 27 年度（2015）決算では、桜町・本町高齢者在宅サービスセンターが事業収支で黒字計上し、財務の最難関課題であったヨハネホームも資金収支では黒字を達成することができた。『財務改善』に特化してきたこの 3 年間であったが、黒字継続に目途が立ちつつあるので、財務に今後も注視しつつ財務改善プロジェクトの役割は一旦終え、高齢福祉部門の第三期中期経営計画にのぞんだ。第三期中期経営計画は、ヨハネ会高齢福祉部門の施設サービス・在宅サービスに責任を持つ統括施設長と部長会議のメンバーにより、SWOT 分析に時間をかけ、分析結果を更に合議・検討し、基本戦略を策定してきたものである。組織改編後、新しい経営層による初めての中期経営計画となった。

財務状況について

高齢福祉部門の今期の財務状況は、前年度に引き続き、全体的に大きな前進が見られた。財務の最難関課題であったヨハネホームも事業収支会計では、僅かに黒字に到達できなかったものの資金収支会計では、連続し黒字を達成することが出来た。在宅サービス部門は、両センターとも資金収支会計・事業収支会計とも黒字継続を達成した。高齢福祉部門総計では、資金収支会計が 3136 万円の黒字、事業収支会計が 2331 万円の黒字を計上しており厳しい介護保険報酬下で各部各課の大きな努力による改善を継続している。

財務状況を施設別に見ると桜町聖ヨハネホームは、資金収支会計で 1097 万円の黒字。事業収支会計で 261 万円の赤字。桜町高齢者在宅サービスセンターは、資金収支会計で 1157 万円の黒字、事業収支会計で 1208 万円の黒字。本町高齢者在宅サービスセンターは、資金収支会計で 882 万円の黒字、事業収支会計で 1384 万円の黒字となっている。

高齢福祉部門の三施設では、これまで財務改善策として、支出削減策と利用率向上による収入増策を挙げてきたが、三施設とも大きな支出削減は実施され、利用率も年間を通して高利用率を達成しており、利用率で言えば上限到達の状況にあると言える。今後、2018 年度介護保険報酬改定で報酬減額があれば、引き続き大きな黒字を計上していくことは困難が見込まれる。資金収支会計の黒字計上は、継続しつつ高齢福祉部門と法人各部門の財務構造を分析し、今後の財務方針については、法人全体で共有し対応することが望まれる。

法人内の連携と他団体との連携について

地域包括ケアシステムの中では、『医療と介護の連携』や『地域の認知症への取組み』などが大きな柱として挙げられている。社会福祉法人ヨハネ会は、法人内に医療と介護の両面があるので、地域でも期待される重要な位置をしめている。このような中で、高齢福祉部門は継続して法

人内医療との連携強化を進めた。石島名誉院長を始めとした桜町病院嘱託医チームとは、定期的な嘱託医連絡会を持ち、現状分析や課題の共有を行った。また嘱託医チームだけでなく桜町病院の看護部、用度課、医事課との連絡会も複数持ち、各々、連携の改善や強化に繋げていった。法人内で同じ福祉部門である障害福祉部門とは、これまでワークセンターや障がい者雇用で連携があったが、11月に初めて部長会議メンバーによる富士聖ヨハネ学園と聖ヨハネ富士北麓センターの視察研修会を通して、理念に基づく人財育成について課題を共有することが出来た。

また法人内に留まらず、他団体との連携も重要で、大学・専門学校や日本カトリック老人施設協会との連携強化も図った。大学・専門学校との連携強化では、法人本部、障害福祉部門とともに YMCA 福祉医療専門学校に訪問し関係強化を進めた。大学との関係は地元の武蔵野大学人間科学部社会福祉学科との連携強化を計画し、熊田博喜学科長を訪問し実習・研究の場の提供や高齢福祉部門に専門家として関わっていただくよう説明し依頼し次年度に繋げている。

日本カトリック老人施設協会は、理念が同じキリスト教の愛の精神を持つカトリック老人福祉施設である。主催の全国研修大会（10月：広島市）は、職員の人財育成の場と位置付け参加した。また、日本カトリック老人施設協会の関東支部において、支部長・副支部長人事（任期2年）の改選があり、桜町聖ヨハネホーム施設長の藤井律治が関東支部長、聖ヨゼフ老人ホーム施設長の小野ベリ子氏が関東副支部長に選出された。重責であるが、関東地区及び全国のカトリック老人施設協会のメンバーと交流を取りつつヨハネ会高齢福祉部門の今後の事業展開に生かしていくこととなった。

I 桜町聖ヨハネホーム
(指定介護老人福祉施設・短期入所生活介護)

【平成 28 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均 利用者数	利用率 (H28度)	利用率 (H27度)	利用率 (H26度)
介護老人福祉施設	106名	101.5名	95.8%	94.3%	92.0%
短期入所生活介護	8名	6.2名	78.0%	87.1%	94.5%

※定員 106 名の内、2 床：看取室・緊急ショート室として利用。

平均年齢 86.7 歳（最高 103 歳、最低 57 歳）

男女比率 17：87（2017 年 3 月 31 日現在：104 名）

平均在所期間 3 年 6 ヶ月（最長 16 年 9 ヶ月）

年間入所 19 名（2015 年度入所：24 名・2014 年度入所：34 名・2013 年度入所：27 名）

年間退所 18 名（2015 年度退所：24 名・2014 年度退所：26 名・2013 年度退所：28 名）

【職 員】

	平成 28 年 3 月 31 日 の職員数			年間退任・就任						平成 29 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
施設長	1		1							1		1
医 師		6	6								6	6
生活相談員	2	1	3	3	3	2	1	5	4	2	2	4
介護支援専門員	(3)		(3)							(3)		(3)
介護員	31 (3)	14	45 (3)	5	5	4	1	9	6	31 (3)	17	48 (3)
看護師	5	2	7							5	2	7
機能訓練指導員等	1	2	3							1	2	3
管理栄養士	1	1	2							1	1	2
調理員	4	8	12	1	1	2		3	1	4	10	14
事務員	2	3	5	1	1		1	1	2	2	2	4
生活サポート		15	15			3		3			18	18
用務員		1	1			1	1	1	1		1	1
合 計	47 (3)	53	100 (3)	7	4	10	14	17	18	47 (3)	61	108 (3)

※上記表には管理宿直員含まず ※副園長（常勤）は機能訓練指導員兼務

※介護派遣職員 平成 29 年 3 月 31 日現在 夜勤専従員介護員 2 名

【施設運営状況】

1. 財務改善について

当該年度も、ホームの施設目標の中で、『財務の健全化をが継続できる』を打ち出して財務改善を実施した。前年度、大きく財務改善が進んでいるので財務改善自体は、継続しつつも施設目標の順位を下げて、利用者サービスや組織強化については施設目標の順位を上げている。

具体的な取組みとしては、医務係は毎朝の朝礼で職員全体に、熱中症による脱水予防、感染症対策で手洗い・マスクの励行などの細かな注意喚起を実践し誤嚥性肺炎や脱水・感染症による入院は、前年度に続き減少（収入増）している。感染症についても発症者が出て多数の集団感染を出さずに終息に至った。生活相談係は、これまでの入所の促進・空床の有効利用の取り組み、入所検討会議での検討がスムーズになされる仕組みや医務係・介護係と連携し入所までの時間短縮を図った取り組みが継続され、年間を通して高い利用実績をあげることが出来た。入所目標 102 名、入所実績 101.5 名であった。ショートステイにおいては、受入担当の生活相談員が年度中途の退職があり、新任者も研修や引継期間もあり、目標を 1 日当たり 6.7 名としたが、年間実績は、6.2 名となった。＜当初目標…入所 101 名・ショート 7.7 名を下半期から入所 102 名・ショート 6.7 名に変更した＞今後の利用率安定に繋がる新規面接なども再開している。

尚、2018 年度に貫井北町に入所 152 名定員、ショートステイ 12 名定員の施設特養がオープンする。ショートステイサービスについては、この他にも近年、多種多様なショートステイ専門施設やお泊りデイも増加している。ヨハネホームでのショートステイのあり方や利用ベット数の適正化について中期経営計画でも取りあげた。

また、助成金活用が進み、東京都助成金である介護職員等宿舎借り上げ制度助成金に申請し決定を受け、2 月より最大 4 戸の借り上げ社宅が可能で実施中である。

2. 入退所の動き

ベッドが空いている期間が短くて済むよう工夫し、スムーズな入所がなされるよう継続し取り組んでいる。総計 19 名の新入所となった。退所は今年度総計 18 名。入退所の動向は、過去 4 カ年は、年間を通して 20～30 名あったが、今期は比較的安定した状況であった。また、入院中の空きベッドをショートステイ利用者に充てるためには、桜町病院との連絡を一本化して、スムーズな連絡調整ができるよう継続して対応している。

3. 財務状況について

財務改善は、継続され着実に進んでいる。ホーム事業収支会計は、黒字に僅か到達できなかったが、今期、2016 年度は、▲261 万円と大幅に赤字が削減されている。事業収支会計の過去の推移は、2015 年度は▲1011 万円、2014 年度は▲1990 万円、2013 年度は▲4130 万円である。寄付金収入を計上せずに赤字幅を大きく減らしたことは、財務改善の前進と考えている。

資金収支会計の決算額は、直接、財源・資金を減らすものと警戒し特に黒字化を必須とし進めている。今期 2016 年度は目標を大きく達成し、黒字 1097 万円を計上した。資金収支会計の過去の推移は、2015 年度は+562 万円、2014 年度は▲173 万円、2013 年度は、▲1950 万円であったので資金収支会計も大きな改善がみられた。

サービス活動の人件費率は、改善傾向が見られており今期、2016 年度は 73.6%であった。

過去の推移は 2015 年度は 75.9%、2014 年度は 75.18%、2013 年度は 78.11%である。

但し、今期の人件費率については、介護員・事務員の常勤職員の中途退職による補充採用が、採用難でスムーズにいかず人件費支出減があり、予定通り補充されていれば人件費率は依然 75%以上になっており、人件費率を改善することは、引き続き努力を要する。

また今期の減価償却費は、2478 万円を計上。2015 年度 2568 万円、2014 年度 2770 万円、2013 年度 3160 万円計上であり、これを完全にカバーできる財務状況にはまだ至っていない。引き続き財務改善の取組みを継続するが、まずは、資金収支会計での確実な黒字継続を目指す。

【利用者支援状況】

1. リスクマネジメント 2. 感染症対策 3. サービスへの取り組み

⇒ 上記については、施設サービス部（ホーム）の事業計画書に対応し以下に報告する。

1. 施設目標…人生の完成に向かって歩まれている利用者様に『大切にされていると思われるケア』を実践する。【サービス】

(1) その時の利用者様に合わせたケアを一つ一つ丁寧に積み重ねる。

- ・褥瘡、紙おむつ、薬剤に関する学習会や感染症に関する合同研修、マニュアルの読み合わせ、などを実施して介護力の底上げを図った。

- ・外部研修もケアの向上に直接関わるものと人材の育成教育・組織力を上げるためのケアの向上に間接的にかかわるもの等54件の外部研修に計58名を参加させた。その中で特に次年度人材の確保と職員の育成の充実を図るためにその中心となる職員を計画的に研修に行かせ、次年度に備えた。法人内の研修にも積極的に参加をさせた。
- ・この年度も猛暑であり、新入所者は要介護度が4又は5の方々であり年々重度化しているが、介護と看護が連携し、脱水による急変者はいなかった。
- ・今年度入院者44名のうち誤嚥性肺炎での入院は2名であった。口腔ケアの徹底が功を奏していると考え。また、閉鎖式の尿カテーテルに変更した際にカテーテル留置者には陰部洗浄を依頼し、尿カテーテル留置者の尿路感染での入院はゼロであった。
- ・今年度の死亡者数は14名。内ホームでのお看取りをした利用は8名。今年度家族会主催で、家族向けの看取りに関する学習会を桜町病院医師でホームの嘱託医の大井医師が実施してくれた。家族にも看取りに関する意識が高まってきていると考え。また、ホームとしては全ケアワーカーへのエンゼルケア指導を通して看取り介護サービス提供への意識は高まった。
- ・胃瘻増設者の経口摂取の取り組みも今年度初めて試み、順調に経緯している。
- ・布おむつから、紙おむつへ全面的に移行した初年度であった。感染症を予防できる排泄ケア、汚物の処理、消毒を実施して多床室で建物としても強制換気などのシステムは整っていないが、ノロ等が拡大感染するような事態は起こらなかった。
- ・栄養部も積極的に利用者とかかわりを持ち、選択メニュー、利用者の郷土料理、おやつ作りの会、デザートバイキング、コーヒーサービスの実施、利用者への講習会、さくらカフェの開催、利用者が屋上菜園の収穫を楽しむことが出来る様に援助したりなど、食を通して『大切にされていると思われるケア』を実践した。

以上からも1.の目標に関しては、今年度は介護職員の退職に対する欠員補充がスムーズになされなかったが、それぞれの職員が目標達成を念頭に置き、実践が出来たと考えられる。今後も一つ一つ丁寧なケアを実践し、『大切にされていると思われるケア』を行い、尚且つ満床維持をしていくには、人材の確保と育成が重要なポイントとなるため、次年度にはこれに対する対策を実施する。

2. 施設目標…職員一人一人が役割と責任と誇りを持つ【人財育成】

(2) ①それぞれの業務への自覚・見直しを行う。

②職員同士がお互いを尊重しつつ、報告・連絡・相談できる職場づくりに努める。

- ・通常の特養施設受け入れのご利用者の要介護度は原則3以上となり、身体状況や認知症状の重度の方の受入となっている中、介護職員の退職の補充がままならない状況下でリスク管理は非常に難しい状況下であった。介護事故予防対策会議や転倒転落の危険度をご利用者一人一人評価したりとリスクマネジメントを実施した。
- ・医務係と介護係と連携し口腔ケア・口腔リハビリについてケアプランのアセスメントに反映させたり、リハビリ担当と連携し臥床時の体位変換・安楽な姿勢保持、車いす使用者の良肢位保持をケアプランに位置づけ実践出来たりと他職種連携しての仕事の仕方は出来、役割と責任については実践出来た。

しかし、特に介護係は人員不足を補いケアの質を落とさないよう努めることで終始し、業務の見直しまでは至らなかった。今後もそれぞれの職種がお互い連携しつつ、『ご利用者の為』を第一にそれぞれの役割と責任と誇りを持てるよう、職員の育成を強化していく。

3. 施設目標…財務の健全化が継続できる。【財務】

(3) 『空床ゼロ』の継続を目指す。 ⇒ 『財務状況について』で取り上げ

4. 施設目標…開かれた施設であり続ける。【組織】

(4) 部門内各係・法人内各施設・地域との横のつながりを大切にして、連携を強める。

- ・高齢福祉部門として、在宅サービス部と施設サービス部と部長会議を通してお互いの課題についてより積極的な意見交換が出来た。また共通の委員会でもそれぞれの目的に沿って作業を実施することでよりそれぞれの部を理解できたと考え。今後も部門内がより統一した形になるようにしたい。
- ・今年度はヨハネ会の同じ福祉部門として山梨のヨハネ学園への施設見学と管理者との交流を図った。今後も同じヨハネ会の福祉部門として交流を深めていきたい。
- ・それぞれのボランティア団体の受け入れなども積極的に実施した。ボランティア懇談会においては、ボランティアの皆様から様々なご意見を頂き、それをより良いケアに生かして

いくようにホーム内で検討している。中高生のボランティア受け入れ、保育園園児との交流等を実施した。
 今後もより地域に開かれた施設であり続け、沢山の眼と声が行き届いている施設であるよう努力したい。

特記事項 緊急ショートステイの受け入れについて

利用者数は男性5名。女性8名の計13名。延べ利用日数は153日であった。
 前年度は、実績4名。延べ利用日数37日の実績状況である。利用内容は主な介護者の急病・入院・介護者からの不適切な介護・虐待等があげられる。在宅での老老介護の実態が汲み取れる。また、異常気象による夏場の熱中症や孤独死においても、被害防止の為に、緊急ショートステイの利用は有効性が見られる。今後も増え続けるであろう通常サービスでは対応できない受入サービスとしての緊急ショートステイは必要性が高いものと考えられる。

〔I〕 入所ご利用者のADL状況について

※ADL状況について<2017年3月31日現在・単位(人)・77名調査>

種類 \ 区分	介助されていない	見守り	一部介助	全介助
食 事 (構成比 %)	10 (13.0)	45 (58.4)	12 (15.6)	10 (13.0)
衣服着脱・上着 (構成比 %)	11 (14.3)	5 (6.5)	40 (51.9)	21 (27.3)
衣服着脱・ズボン (構成比 %)	7 (9.1)	1 (1.3)	14 (18.2)	55 (71.4)
排 泄・排 尿 (構成比 %)	7 (9.1)	6 (7.8)	24 (31.2)	40 (51.9)
排 泄・排 便 (構成比 %)	7 (9.1)	4 (5.2)	28 (36.4)	38 (49.4)
洗 身 (構成比 %)	0 (0.0)	0 (0.0)	23 (29.9)	54 (70.1)
起 床 (構成比 %)	1 (1.3)	0 (0.0)	45 (58.4)	31 (40.3)
寝 返 り (構成比 %)	4 (5.2)	0 (0.0)	43 (55.8)	30 (39.0)
立ち上がり (構成比 %)	2 (2.6)	0 (0.0)	36 (46.8)	39 (50.6)
歩 行 (構成比 %)	7 (9.1)	0 (0.0)	15 (19.5)	55 (71.4)

〔II〕 入所ご利用者の要介護度の状況について (前年年度末:比)

《2017.3.31 現在》

《2016.3.31 現在》

	男 性	男 性	前年同日比増減
要介護1	0名	0名	0名
要介護2	1名	2名	-1名
要介護3	5名	3名	+2名
要介護4	7名	6名	+1名
要介護5	4名	5名	-1名
合 計	17名	16名	+1名

〔Ⅱ〕入所ご利用者の要介護度の状況について（前年年度末：比）

	《2017. 3. 31 現在》		《2016. 3. 31 現在》	
	女性	女性	女性	前年同日比増減
要介護1	4名	3名	3名	+1名
要介護2	7名	7名	7名	0名
要介護3	18名	23名	23名	-5名
要介護4	38名	32名	32名	+6名
要介護5	18名	18名	18名	0名
合計	85名	83名	83名	+2名

【施設整備状況】

建設後 30 年を超えてライフライン関連の高額な設備機械の更新や修繕費対応が近年続いている。今期は、特別に高額な固定資産物品の取得や修理・工事がなかったものの、定期的な固定資産物品の更新による購入や修理・工事は多くなっている。厨房内のパッケージエアコンについては、老朽化により故障したため天吊型エアコンを緊急工事で夏場前に約 53 万円かけて設置した。予算時に計画的に優先順位をつけて予算化しているが、予期せぬ修理・更新も多くなってきており、対応に追われる状況がある。

修繕費については、ボイラー温水・冷房チラー・配水管等の日常点検を強化し、漏水など故障箇所の早期発見を努めている。また、職員にも不具合箇所の早期報告に協力してもらっている。この影響か、今期の修繕費総額は 300 万円であり 2015 年度 236 万円・2014 年度 593 万円・2013 年度 423 万円) で大きな修繕費支出を計上していない。修繕費においても支出削減の財務改善効果がみられた。

有形リース資産は、社会福祉総合ソフトウェア（介護保険請求含む）：AK ビジネスについて、更新時期にあたり、継続し 5 年間のリース契約：約 470 万円を行った。

また、認知症による徘徊事故防止やセキュリティーのためのオートロック・インターフォン・ボーダー等のセキュリティーシステム：セコムも更新時期にあたり、継続し 5 年間のリース契約：約 390 万円を行った。

1. 主な固定資産取得（器具及び備品）

●	4/30	厨房内天吊型空調機一式（鈴木工務店）	529,200 円
●	5/31	介護用電動ベット 1 台（日本エンゼル）	332,640 円
●	6/30	静養室アコーディオンカーテン（鈴木工務店）	288,360 円
●	7/31	2 階給湯室給湯器	190,080 円
●	9/30	介護用電動ベット 3 台（日本エンゼル）	950,000 円
●	10/24	デスクトップパソコン（事務室：ゼロックス）	123,228 円
●	3/31	介護用電動ベット 1 台（日本エンゼル）	308,880 円
●	3/31	2 階ワーカー室エアコン	127,440 円
●	3/31	病院～ホーム間 LAN 設備一式	184,680 円

2. 主な修繕費支出

●	6/30	給水ポンプメンテ・部品交換工事（オズ）	163,080 円
●	7/31	入浴ロベリア：担架マット交換修理等	106,596 円
●	8/5	報知器・非常灯交換修理	129,600 円
●	9/30	ボイラー循環ポンプ交換（前田鉄工所）	207,360 円
●	9/30	天井裏結露漏水修理	167,400 円
●	12/31	トイレ水回り漏水修理	110,700 円
●	2/15	生ごみ処理機修理（豊栄）	145,800 円
●	2/23	ワーカー室整備：畳替とふすま修理	119,794 円
●	2/28	厨房業務用ミキサー 2 台修理	143,748 円
●	2/28	入浴：ロベリアキャスター修理等	181,267 円

3. リース資産 計上分

- 10/14 トータル社会福祉総合ソフト (AK ビジネス) 4,698,000 円
- 3/31 セコム : 1階セキュリティ等一式 3,888,000 円

2016 年度研修参加一覧表 桜町聖ヨハネホーム

NO	研修名	主催	場所	期間	参加者
1	症状から学ぶ 美濃先生の高齢者の急変対応セミナー	全国高齢者施設看護師会	タイム 24 ビル	4/16, 17	武田
2	メディカルケアサポートセミナーIN 西東京	メディカルケアサポートセミナー事務局	保谷こもれびホール	4/20	小林
3	平成 28 年度 初任者研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	4/26, 27	郷司
4	平成 28 年度 初任者研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	5/17, 18	成島
5	平成 28 年度 介護福祉科 実習連絡会	読売理工医療福祉専門学校	読売理工医療福祉専門学校	5/7	小野
6	プラン作成に関連する生活リハビリについて学ぶ	東京都社会福祉協議会	研究社英語センター	5/18	芦澤
7	ストレスチェック実践対策セミナー	応研	応研株式会社 東京本社	5/19	田邊
8	採用力向上に関する研修会	東京都高齢者福祉施設協議会	研究社英語センター	6/9	芦澤
9	摂食嚥下障害の基礎知識～当施設におけるソフト食導入について～・成分表の理解と活用について	東京都社会福祉協議会	飯田橋セントラルプラザ	6/11	森川
10	求職者に選ばれる法人（事業所）のあり方と効果的な採用活動について	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	6/16	藤井
11	平成 28 年度 中堅職員研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	7/5, 6	属
12	平成 28 年度 中堅職員研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	7/26, 27	大川内
13	平成 28 年度 中堅職員研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	9/13, 14	鈴木
14	高齢者福祉施設におけるサービスマナー研修会 リーダー養成コース	東京都社会福祉協議会	研究社英語センター	7/8・8/5・9/8・10/14・1/18	山根
15	ボランティアコーディネーター基礎研修	日本ボランティアコーディネーター協会 (JVCA)	ルーテル市ヶ谷センター	7/11	松尾
16	死にゆく過程の疑似体験 ～高齢者を支える私たちが死と人生について考える～	東京都社会福祉協議会	特別養護老人ホーム鳳仙寮	7/15	木野
17	介護報酬請求事務に関する研修会 (基礎編)	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル	7/21	大橋
18	介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修 (入所系)	東京都福祉保健財団	東京都社会福祉保健医療研修センター	8/1	芦澤
19	国が進める介護ロボット・ICT・AI の活用 ～今、知っておかなくてはならないポイントを理解する～	東京都社会福祉協議会	飯田橋セントラルプラザ	8/2	志藤
20	ロボット介護機器等活用セミナー (ロボット介護機器・福祉用具活用支援モデル事業説明会)	東京都福祉保健局	東京都議会議事堂	8/3	芦澤・志藤
21	「安全な移乗介助を行うために！」	東京都社会福祉協議会	トヨタドライビ	8/29	橋本・郷

	～自分の身体を整えて、腰痛を予防し負担の少ない介助動作を学ぶ～		ングスクール東京		司
22	キャリアパスを活かした人事管理と育成制度 ～人材育成と働きがいのある職場づくりの構築に向けて～	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	9/2	芦澤
23	食事場面の車いすシーティング	関西看護ケア研究会	LMJ 東京研修センター	9/11	佐藤
24	終末期がん患者さん・ご家族へのケア～より良い看取りの為に～	聖ヨハネホスピスケア研究所	聖ヨハネホスピス	9/11	永野、廣瀬
25	クレームにならないための相談技術～患者の話を聞くときに大切なこと～	東京都多摩府中保健所	東京都多摩府中保健所	9/15	浅見
26	メンター制度導入・活用研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	9/23	磯野
27	平成28年度 社会福祉事業従事者人権研修 (第3回)	東京都福祉保健局	東京都社会福祉保健医療研修センター	10/5	芦澤
28	平成28年度 東京都老人福祉施設等感染症対策指導者養成研修	東京都福祉保健局	東京都庁第一庁舎	10/11	田邊
29	平成28年度 ショートステイ情報交換会 「明日から活用できるショートステイの現場でのリスクマネジメント」	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル	10/13	伊藤
30	平成28年度 福祉施設経営基礎研修～経営初級過程～	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	10/24、 11/15	芦澤
31	平成28年度 労働基準法等に関する基礎研修会	東京都社会福祉協議会	国立オリンピック記念青少年総合センター	10/25	芦澤
32	介護報酬請求事務に関する研修会 (応用編)	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル	10/27	谷村・大橋
33	高齢者福祉施設におけるサービスマナー研修会[ベーシックコース]	東京都社会福祉協議会	研究社英語センター	2016/11/7・ 12/5	青木
34	平成28年度 特定給食施設栄養管理講習会 「介護食品の企画決定と使い方について」	東京都多摩府中保健所	多摩府中保健所	11/8	江黒
35	平成28年度 特定給食施設栄養管理講習会 「災害に強い給食施設づくり～給食施設におけるBCP(事業継続計画)～」	東京都多摩府中保健所	調布市文化会館 たづくり	12/7	西河
36	養介護施設従事者等による高齢者虐待防止「研修支援セミナー」(第2回)	東京都福祉保健財団	東京都福祉保健財団	11/8	芦澤
37	チームリーダー(重点テーマ)強化研修～リーダーシップ・課題形成・後輩指導を中心に～	東京都社会福祉協議会	日本社会事業大学	11/8,9	小野
38	介護施設での凍結含浸活用術	社会福祉法人 同胞互助会	特別養護老人ホーム 愛全園	11/10	西河
39	「質の高い介護人材の育成」～介護サービスの質の向上を目指して～	東京都国民健康保険団体連合会	杉並公会堂	11/14	芦澤
40	定着力がアップする採用活動の秘訣～「らしさ」を磨いて選ばれる職場へ～	東京都社会福祉協議会	飯田橋セントラルプラザ	11/22	伊藤
41	在宅・高齢者ケア施設の看護管理者交流会	東京都看護協会	東京都看護協会会館	11/30	小林
42	平成28年度 チームリーダー研修	東京都社会福祉協議会	日本社会事業大学文京キャンパス	12/13,14	橋本
43	平成28年度 チームリーダー研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	1/17,18	鳥海
44	福祉事業所のための研修体系確立・推進研修～研修の基本を学び職場研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	12/20,21	芦澤

	の体制を作ろう～		ンター		
45	看護師が少ない介護施設で安全に進める医療的ケア	日総研出版	日総研 研修室	1/21	小林
46	認知症への理解と高齢者の生活支援	東京都福祉保健局保健政策部 特定非営利活動法人メンタルケア協議会	全理連ビル	1/29	長谷川(暁)
47	平成 28 年度 管理職員研修	東京都社会福祉協議会	日本社会事業大学文京キャンパス	2/7.8	芦澤
48	平成 28 年度食品衛生実務講習会	多摩府中保健所	府中グリーンプラザ	2/7	朴・西河
49	介護福祉施設の防犯体制強化対策～なぜ職員が“さすまた”で取り押さえるのか？～	東京都社会福祉協議会	研究社英語センター	2/10	遠藤
50	摂食嚥下機能に合わせた食形態の提案～地域における食支援を通して～	八王子集団給食協議会	日本水産(株) 八王子総合工場	2/13	江黒
51	平成 28 年度栄養管理講習会	東京都多摩府中保健所	多摩府中保健所	2/22	西河
52	平成 28 年度 福祉事業所のための研修体系確立・推進研修 ～研修の基本を学び職場研修の体制を作ろう～	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	2/22, 23	鳥海
53	平成 28 年度 OJT 推進研修 ～仕事の中で人を育てる意味を学び、効果的な実践に取り組もう～	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	2/28	遠藤
54	平成 28 年度 OJT 推進研修 ～仕事の中で人を育てる意味を学び、効果的な実践に取り組もう～	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	2/28, 3/1	鳥海
55	平成 28 年度 福祉事業者における権利擁護・苦情対応研修 「福祉サービスにおける契約の理解とリスクマネジメント、苦情解決について」	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	3/1	木村
56	採用・人事担当者セミナー	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	3/6	藤井・福岡

Ⅱ 桜町高齢者在宅サービスセンター

通所介護・訪問介護・訪問入浴介護・居宅介護支援・小金井市委託事業
 小金井きた地域包括支援センター（小金井市委託事業・介護予防支援）

【平成28年度利用状況報告】

種別	種別	定員	年間 延定員	延べ利用 者数	1日平均 利用者	利用率 (H28年)	利用率 (H27年)	利用率 (H26年)
介護保険事業	通所介護 (一般・予防・総合事業)	30	9,180	8,711	28.5	94.9%	97.5%	92.6%
	通所介護(認知)	24	7,344	5,100	16.7	69.4%	67.8%	70.8%
	訪問介護	120/週	6,120	5,510	18.0	90.0%	105.8%	92.0%
	訪問入浴	5.3	1,625	1,464	4.7	90.1%	106.6%	97.3%
	居宅介護支援	155/月	1,860	1,896	158/月	101.9%	103.1%	97.2%
	予防・総合事業 プラン	260/月	3,120	3,556	202.3/月			
栄養事業	給食	38	11,628	12,047	39.4	103.6%	106.0%	95.3%
	配食サービス	70	20,650	20,698	70.7	100.2%	100.2%	92.7%
市委託事業		やすらぎ支援	年間延派遣回数 153回 実利用者数 6名 支援員登録数 6名					

● 利用者の動向

通所介護・認知症通所介護の要介護度の状況

① 通所介護（一般・予防・総合事業）

平成28年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	955	642	3,284	1,959	916	938	19	8,713
割合	10.9%	7.4%	37.7%	22.5%	10.5%	10.8%	0.2%	100.0%
平成27年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	1,057	725	3,651	1,452	964	1,052	49	8,950
割合	11.8%	8.1%	40.8%	16.2%	10.8%	11.8%	0.5%	100.0%

② 認知症対応型通所介護

平成28年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	0	0	1,385	1,330	869	1,027	491	5,102
割合	0.0%	0.0%	27.1%	26.1%	17.0%	20.1%	9.6%	100.0%
平成27年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	3	0	888	1,597	1,221	841	432	4,982
割合	0.1%	0.0%	17.8%	32.0%	24.5%	16.9%	8.7%	100.0%

【職員】

	平成 28 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 29 年 4 月 1 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1		1							1		1
事務長												
介護員	2	10	12	1	2	5	4	6	6	2	10	12
相談員	8	2	10	2	1			2	1	9	2	11
看護師	1	6	7			1		1		1	7	8
介護支援専門員	4	1	5			1	1	1	1	4	1	5
訪問介護員	1	11	12		1				1		11	11
運転員		4	4			1		1			5	5
栄養士	2	1	3							2	1	3
調理・調理補助		5	5				1		1		4	4
理学・作業療法士		1	1								1	1
事務員		3	3								3	3
高齢住宅管理人		11	11			1	5	1	5		7	7
清掃員他(洗浄員)		3	3								3	3
合計	19	58	77	3	4	9	11	12	15	18	56	74

【施設運営状況】

(1) 財務改善の取り組み

財務改善計画の 2 年目として、平成 28 年度も引き続き財務改善を大きな目標に事業運営に取り組んだ。小金井市からの「さくら健康クラブ」委託事業中止や 10 月からの通所介護・訪問介護事業における要支援者の総合事業移行による収入の減少が予想される中、各事業が財務改善の為の具体的な数値目標を設定し、高齢福祉部門経営会議・在宅サービス部運営会議・職員会議等で、現況報告や問題点・実績改善に対する具体的な内容を話し合い、各職員が方針に基づいた対応を実践し、数値目標を常に意識しながら目標達成を目指した。具体的な対応としては、通所介護事業における年間 12 日間祝日営業や困難ケースや重度介護者の積極的受け入れ、事業所への積極的営業活動や信頼関係の構築、居宅介護支援事業所における法人内紹介率を意識したサービス依頼上等があげられる。また事務費・事業費に関しては、引き続き無駄を省く努力を重ね支出削減にも取り組んだ。

その結果として桜町高齢者在宅サービスセンター全体で平成 28 年度当期資金収支差額は 1,157 万円の黒字、当期活動増減差額は 1,208 万円の黒字という結果を残し、平成 27 年度に続いて財務改善を継続することが出来た。

(2) 中期経営計画について

平成 29 年～31 年における部門の「第三期中期経営計画」を法人主導のもと作成した。

高齢福祉部門では、SWOT 分析により現状の可視化をおこない、それに基づいて戦略プロセスを①財務②サービス③組織④人財と位置付けた。今後、戦略プロセスに対するそれぞれの視点での経営目標・戦略的アクションプランに添って取り組んでいくことになる。

また、この 3 年間取り組んできた「財務改善プロジェクト」については、高齢福祉部門全体として事業収支状況の黒字化継続に目途が立ちつつある為一旦終了とし、今後は「第三期中期経営計画」に注力していく。

【利用者支援状況】

(1) リスクマネジメント

1) 介護事故

通所介護係で7月にセンター玄関で転倒事故が発生し、受診の結果左上腕骨骨折と判明する。玄関マットに躓いたことによる転倒であった。また3月にはセンターまで自己通所してきた利用者と送迎車輛が接触し、救急搬送の結果外傷性くも膜下出血を受傷させてしまう事故を起こしてしまう。幸いにお二人ともその後体調は無事回復されたが、二件ともサービス業務向上委員会で事案として取り上げ、事故の振り返り・今後に向けてサービスの改善を検討した。

2) ヒヤリハット

通所介護係では、平成28年度も年間を通してヒヤリハット事例を報告し、ミーティング内で事例の共有・改善策を話し合ってきた。平成28年度に事例として挙げたヒヤリハットの分類と件数は下記の通りである。

送迎(40件)、入浴(5件)、転倒・移動(30件)、服薬(8件)、食事(9件)、
物品返却忘れ(8件)他(29件)

事例の共有・改善対応の結果、事故や苦情を未然に防いでいると考えられ、職員の責任感や緊張感のある対応にもつながっている。

3) 苦情

平成28年度も引き続きサービス業務向上委員会の中で苦情や事故、要望、賞賛事例を取り上げ、他事業、他職種からの意見をいただき、その後の業務改善に生かして来た。様々な角度から意見や評価をもらい、各係が行った対応を振り返り、問題点を考え、改善につなげるという意味から有意義な会議になっている。

平成28年度桜町センター内では、大きな苦情報告はなかったが、係内で発生しているちょっとした要望や苦情が皆で共有出来ないことや報告がない場合が見受けられる。サービスの質の向上や大きな苦情にしないためにも事例の報告が出来る仕組みづくりを考える必要がある。

(2) 感染症対策

平成28年度も高齢福祉部門合同での感染症研修を6月に食中毒に関すること、9月にインフルエンザ・ノロウイルスに関する感染症研修を行った。

また各事業においても、ミーティング内等で感染症発生時の対応に関する内部研修を行い、特に10月～3月においては手洗いの徹底、マスクの着用、加湿器の設置、換気、体調の管理等を行い感染症を未然に防ぐ努力を行った。

平成28年11月下旬には相談支援課職員を中心に4名がインフルエンザA型に感染し出勤停止の対応を講じた。また平成29年1月には通所介護利用者5名、職員2名がインフルエンザA型に感染し、感染症特別対応を実施(感染フロアの隔離)、保健所・市役所への報告を行なう。早期の対応を実施したことにより最小限の拡大にとどめることが出来た。

12月には栄養課の職員がノロウイルスに感染、自宅での症状発症であったが、食事の調理を扱う職員であった為、検査で陰性反応が出るまで食事業務全般の禁止の対応を行なう。

(3) サービスへの取り組み

施設重点取組事項

1) 通所介護・受託事業係

① 予防・一般型通所介護

平成28年度は年間平均利用率94.9%と目標である93%を大きく上回ることが出来た。利用状況を細かく分析し、積極的な新規利用者の受け入れや利用回数増を行った点、担当者を決めイベントボランティアの拡大を図ることにより利用の定着につながったことが大きな要因である。要支援1,2の利用者を対象とした10月開始の「新総合事業」準備のため、上半期

は市役所主催の説明会や話し合い、通所事業所間での話し合いに積極的に参加しスムーズな事業開始に努めた。10月から要支援者の総合事業への移行は順次始まっているが、まだまだ制度的に成熟されておらず、市役所と連絡をとりながら試行錯誤の中で事業運営を行なっているのが現状である。

② 認知症対応型通所介護

平成28年度の年間平均利用率は69.4%で目標である75%を大きく下回る結果となった。利用者の入院やショートステイ利用という理由はあるが、利用率改善の為に積極的に動けない・動き出しが遅いという点が問題である。居宅介護支援事業所への営業活動や信頼関係づくりを継続して実施していくことが望まれる。

活動内容に関しては、ストロングポイントの構築をテーマに掲げ、利用者を身体状況や認知症状によってグループ分けを行い、心身状況に応じたプログラムづくりを試みたが、職員間の意見の相違や、職員体制の不備等を理由に実施出来なかった。

利用率目標の達成や魅力あるサービス提供の為に、ストロングポイントを構築していくことが急務である。

介護保険制度改正により、平成28年度から認知症対応型通所介護について「運営推進会議の開催が義務付けられたため、利用者家族・地域の代表（桜町Cでは行政書士）・包括職員に出席してもらい、サービス内容の説明や地域との連携をはかりサービスの質を確保する目的で9月と3月に協議会を開催した。

③ 地域支援事業

<やすらぎ支援事業>

やすらぎ支援員6名、利用者6名の登録で利用者1名につき支援員1名の体制で傾聴活動を実施。4/1に利用者・家族、支援員、市担当、ケアマネ等が集まり懇談会を開催し、情報交換や現状把握を行うことで連携や意識を高める意義ある会であった。

<家族介護者教室>

3月に管理栄養士による「毎日の食事を振り返り、低栄養を防ごう」というテーマで9名の地域の方が参加し行なった。参加者から「とても参考になった」等の意見をいただき、介護支援に役に立つ教室であった。

<サブスタッフ養成事業>

下半期地域のお元気高齢者4名を対象に、講義16回・現場研修を16回受講する「介護予防サブスタッフ養成事業」を受託し実施する。初めての試みであったため苦労も多かったが、受講生は熱心に養成事業に取り組み地域の介護予防に貢献していける人材として育成できたと実感している。

また講義は全て桜町センター職員が講師となり実施したが、講義することで職員自身が初心に返り、介護予防に関して再確認をする良い機会にもなった。

④ グリーンタウン高齢者住宅管理

- ・1日3回の巡回を実施、入居者の安否確認・健康状態・生活相談など丁寧な対応を行なった。
- ・緊急連絡があった場合は、早急に訪問し適切な対応が出来た。困難なケースの場合には、担当ケアマネや包括職員と連絡・調整を行なった。
- ・年間7回の救急車要請を入居者に対して行なった。
- ・入居者同士の交流の場として、月に1回の喫茶、クリスマス会等を実施し好評であった。

2) 訪問サービス係

① 訪問介護

数値目標については、上半期・下半期で大きな差が生じてしまった。下半期利用率が低迷した理由は、サービス提供責任者の退職による新規受け入れ制限によるところが大きい。個人の責任感や能力によって実績を確保していたということが言える。今後組織としての訪問介護の運営の方法を考えていく必要がある。

職員の知識・技術向上に関しては、月1回の検討会の中で継続的に研修を実施しケアの統一や質の向上に取り組んだ。また、情報交換・情報共有を的確に行ない、安定したサービス提供を実践しており、高いレベルのサービス提供が出来ていると自負している。

② 訪問入浴介護

出来る限り要望に応じた受入れや稼働予定日以外の祝日営業を実施し、数値目標達成を目指したが、長期間安定して利用されていた利用者の終結や新規利用者が継続利用につながらなかったこと等の理由で、年間目標件数・収入目標を達成することが出来なかった。今後積極的な営業活動や居宅介護支援事業所との関係づくりが必要である。

職員間での情報共有に努め、利用者一人一人に適した入浴の提供を行い、積極的に利用者・家族とコミュニケーションを図ることにより良好な信頼関係が構築できている。

3) 総合給食係

自由配食1日70食を目標に取り組み、市内事業所への売り込みや相談支援課の協力等により、年間利用率100.3%、1日平均70.2食を達成することが出来た。

組織として高齢福祉部門内他施設との一体化を目標に、栄養士間における定期的な話し合いやコミュニケーションで連携を図り、問題の共有や業務改善に取り組んだ。職員体制の関係で充分ではなかったが、施設サービス部との職員交流で業務の支え合いを実施出来た。

目標に掲げていたマニュアルの周知徹底、仕入れ業者の見直し、給食マネジメントの構築に関しては不十分な点が多く、引き続き取り組む必要がある。

4) 居宅介護支援係

財務改善のため、ケアプラン月155件の目標を立て事業に取り組んだ結果、年間1889件、月平均157.4件の実績を残すことが出来た。特定加算Ⅱの取得を維持することにより質の高いケアマネジメントの提供が出来たと考えている。

利用者の視点に立ったサービス提供という目標に対しては、各介護支援専門員の自己点検票の作成と個人面談の実施し報告・連絡・相談を徹底して行うことは出来たが、組織の中の一員としての責任感や自己啓発の意識をもった行動という点においては、各職員とも積極性に欠けていたと考えている。

今年度4件の苦情が利用者・家族から寄せられた。全て担当ケアマネの対応の不満から担当ケアマネを交代してほしいというものであった。誤解的な部分もあった為、話し合いを行い1件の利用者に関しては担当ケアマネの交代を行なう。

特定加算Ⅱを取得している事業所として、平成29年2月に第1回の東京都介護支援専門員実務研修の実習受け入れを実施した。今後も年間2~3回受け入れを実施していく。

5) 居宅相談支援係 (小金井きた地域包括支援センター)

財務改善に対する取り組みとして、要支援者の介護予防・総合事業プランの直接担当件数をふやすことに努め、プラン目標：月260年に対し、月296件の実績を残すことが出来たが、プラン数の増加により相談業務や虐待・権利擁護対応などの通常業務に支障を来し始めている為、平成29年度は介護予防・総合事業プランナーの専任職員の採用を考えて行く。

地域包括システムの構築・推進に努めるという目標は達成できたが引き続き取り組んでいく重要な課題である。また法人内医療部門との連携に関しては、適切な連携・連絡は取れているが、定期的な情報共有・相互理解を深める為の意見交換の場の設定や人材交流は実施出来なかった。平成28年10月からの新総合事業開始に向けた取り組みに関しては、市役所や市内事業所と連絡・調整しながらスムーズな移行が出来た。

<平成28年度事業実績件数>

①総合相談・支援業務	2,265件
②虐待・権利擁護	10件
③包括的・継続的ケアマネジメント	200件
④申請代行等	405件

- ⑤新予防給付介護予防ケアマネジメント 3482 件
- ⑥総合事業ケアマネジメント 39 件
- ⑦地域介護予防活動支援事業 60 グループ
- ⑨認知症サポーター養成講座開催 5 回 (30 名受講)

2016年度 在宅サービス部 利用実績集計表 (桜町高齢者在宅サービスセンター)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計・平均	
通所介護	一般型 営業日数	26	23	26	26	27	26	26	26	25	24	24	27	306	
	1日 定員30名	780	690	780	780	810	780	780	780	750	720	720	810	9,180	
	実利用者人数	108	109	107	105	99	102	105	107	103	104	108	110	106	
	延利用者数	727	684	766	742	731	714	724	720	722	690	692	799	8,711	
	登録者数	120	122	121	120	118	119	118	119	111	114	119	122	119	
	新規者数	3	3	0	4	1	2	3	2	3	4	6	5	36	
	終結者数	1	1	1	5	3	1	4	1	3	1	1	2	24	
	月利用率	93.2%	99.1%	98.2%	95.1%	90.2%	91.5%	92.8%	92.3%	96.3%	95.8%	96.1%	98.6%	94.9%	
	認知症対応型 日数	26	23	26	26	27	26	26	26	26	25	24	24	27	306
	1日 定員24名	624	552	624	624	648	624	624	624	600	576	576	648	7,344	
	実利用者人数	47	48	48	50	49	49	46	51	49	49	51	53	49	
	延利用者数	425	384	444	471	442	434	427	425	417	388	389	454	5,100	
	登録者数	49	51	50	51	48	51	51	52	51	52	55	56	51	
	新規者数	2	3	1	3	0	3	0	1	3	1	3	2	22	
終結者数	1	0	2	2	3	0	0	0	0	0	0	1	9		
月利用率	68.1%	69.6%	71.2%	75.5%	68.2%	69.6%	68.4%	68.1%	69.5%	67.4%	67.5%	70.1%	69.4%		
訪問入浴	訪問入浴 営業日数	26	23	29	26	27	26	26	26	25	24	24	27	309	
	目標件数 5.3件/日	138	122	138	138	143	138	138	138	133	128	128	143	1,625	
	延入浴件数	123	118	138	134	127	126	122	99	124	108	119	126	1,464	
	延清拭件数	2	3	5	1	1	1	1	5	3	2	1	1	26	
	登録者数	29	28	29	27	26	28	26	28	29	29	29	27	28	
	新規者数	2	0	2	1	1	3	0	3	2	2	2	1	19	
	終結者数	2	1	1	3	2	1	2	2	0	1	3	1	19	
	月利用率	90.6%	99.2%	103.6%	97.8%	89.5%	92.0%	89.1%	75.4%	95.5%	85.9%	93.8%	88.8%	90.1%	
	訪問介護 営業日数	26	26	29	26	27	26	26	26	25	24	24	27	312	
	目標件数 120件/週	476	476	476	476	494	476	476	476	458	439	439	494	5,656	
延派遣件数	518	541	513	480	513	454	439	420	393	373	364	502	5,510		
登録者数	68	71	70	70	67	68	69	69	69	69	58	64	68		
新規者数	0	2	2	0	0	3	1	0	1	1	0	5	15		
終結者数	1	0	1	1	3	2	0	1	2	4	3	0	18		
月利用率	108.8%	113.7%	107.8%	100.8%	103.8%	95.4%	92.2%	88.2%	85.8%	85.0%	82.9%	101.6%	97.4%		
居宅支援	介護プラン件数 実績	164	162	162	164	162	161	158	155	147	149	147	158	1,889	
	155/月 新規	9	4	4	7	3	1	0	3	2	2	7	11	53	
	終結	4	3	6	3	6	3	2	3	7	4	5	2	48	
	予防プラン件数 実績	4	3	2	2	1	1	1	1	0	0	0	0	15	
	5/月 新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	終結	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	
	作成件数合計	166	163.5	163	165	162.5	161.5	158.5	155.5	147	149	147	158	1,580	
	法人紹介率 一般通所 合計	62.5%	66.7%	64.9%	58.3%	57.7%	57.7%	57.7%	59.8%	61.3%	61.9%	60.5%	60.7%	60.8%	
	桜町	43.1%	45.3%	44.2%	41.8%	42.4%	42.4%	43.5%	43.9%	43.8%	46.1%	48.2%	45.0%	44.1%	
	本町	20.8%	24.0%	23.4%	19.8%	18.8%	18.8%	17.7%	19.5%	20.0%	18.4%	16.1%	20.2%	19.8%	
	認知通所 合計	88.0%	87.5%	88.9%	89.3%	88.9%	92.9%	88.5%	89.7%	89.3%	89.3%	90.0%	90.6%	89.4%	
	桜町	72.0%	66.7%	66.7%	67.9%	66.7%	67.9%	61.5%	65.5%	67.9%	67.9%	70.0%	71.9%	67.7%	
	本町	20.0%	25.0%	29.6%	28.6%	29.6%	32.1%	30.8%	27.6%	28.6%	28.6%	26.7%	25.0%	27.7%	
	訪問介護	29.6%	31.3%	30.8%	29.7%	31.2%	32.7%	32.8%	31.6%	29.1%	25.9%	21.8%	26.2%	29.4%	
訪問入浴	50.0%	50.0%	66.7%	66.7%	75.0%	66.7%	75.0%	80.0%	80.0%	80.0%	66.7%	66.7%	68.6%		
訪問看護	46.4%	44.0%	44.0%	37.5%	41.7%	41.7%	37.0%	34.6%	26.9%	32.0%	32.2%	28.6%	37.2%		
短期入所	21.7%	29.2%	33.3%	25.9%	24.0%	36.9%	16.7%	19.2%	24.0%	28.0%	28.6%	17.7%	25.4%		
認定調査件数 他市含 5/月	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	5	5	62		
包括支援	介護予防プラン件数計 260件/月	294	295	293	298	292	292	300	299	304	297	294	298	3,556	
	直営件数 160件/月	195	197	199	207	201	198	202	204	209	206	203	207	2,023	
	直営新規件数	7	6	11	10	3	4	6	7	4	7	8	9	82	
	直営月利用率	144.4%	145.9%	147.4%	153.3%	148.9%	146.7%	149.6%	151.1%	154.8%	152.6%	150.4%	153.3%	149.9%	
	委託件数 100件/月	99	98	94	91	91	90	98	95	95	91	90	91	93.6	
	委託新規件数	1	0	2	2	7	4	0	2	2	2	1	3	26	
委託月利用率	94.3%	93.3%	89.5%	86.7%	86.7%	85.7%	93.3%	90.5%	90.5%	86.7%	85.7%	86.7%	89.1%		
栄養事業	自由配食 営業日数	25	23	26	25	26	25	25	24	24	23	23	26	295	
	目標食数 70食/日 (最低 65/日)	1,750	1,610	1,820	1,750	1,820	1,750	1,750	1,680	1,680	1,610	1,610	1,820	20,650	
	実人数	111	115	113	118	118	119	124	119	113	119	117	119	1,171	
	延食数	1,732	1,594	1,762	1,712	1,782	1,767	1,796	1,705	1,703	1,665	1,617	1,863	20,698	
	登録者数	120	123	121	122	127	128	133	131	124	125	123	127	1,253	
	新規者数	1	5	2	2	5	2	7	3	0	3	2	7	39	
	終結者数	5	2	4	3	0	1	2	1	7	2	4	3	34	
	自由配食月利用率	99.0%	99.0%	96.8%	97.8%	97.9%	101.0%	102.6%	101.5%	101.4%	103.4%	100.4%	102.4%	100.3%	
	給食数 (通所昼)	1,017	941	1,044	1,089	1,018	1,017	1,000	994	991	994	920		11,025	
	利用者実人数	4	4	5	5	6	6	5	5	5	6	6	6	53	
やすらぎ支援	延派遣回数	12	13	9	12	13	13	15	13	13	15	12	13	153	
	支援員登録数	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	67	
	ボランティア総回数(生活)	82	71	81	76	88	83	83	79	82	78	78	85	966	
ボランティア総回数(教養)	29	26	34	26	18	33	33	29	25	26	26	31	336		

平成28年度 部門別達成率

桜町高齢者在宅サービスセンター

上段:人(件) 下段:千円
(標準執行率 100.0%)

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般デイ	人数予算	28人	728	644	728	728	756	728	728	728	700	672	672	756	8,568
	実績		727	684	766	742	731	714	724	720	722	690	692	799	8,711
	差額		-1	40	38	14	-25	-14	-4	-8	22	18	20	43	143
	達成率		1.00	1.06	1.05	1.02	0.97	0.98	0.99	0.99	1.03	1.03	1.03	1.06	1.02
認知デイ	人数予算	18人	468	414	468	468	486	468	468	468	450	432	432	486	5,508
	実績		425	384	444	471	442	434	427	425	417	388	389	454	5,100
	差額		-43	-30	-24	3	-44	-34	-41	-43	-33	-44	-43	-32	-408
	達成率		0.91	0.93	0.95	1.01	0.91	0.93	0.91	0.91	0.93	0.90	0.90	0.93	0.93
訪問入浴	人数予算	5.3人	138	122	138	138	143	138	138	138	132	127	127	143	1,622
	実績		125	121	143	135	128	127	123	104	127	110	120	121	1,484
	差額		-13	-1	5	-3	-15	-11	-15	-34	-5	-17	-7	-22	-138
	達成率		0.91	0.99	1.04	0.98	0.90	0.92	0.89	0.75	0.96	0.87	0.94	0.85	0.91
訪問介護	件数予算	週120件	520	520	520	520	540	540	520	520	540	520	480	540	6,280
	実績		518	541	513	480	513	454	439	420	393	373	364	502	5,510
	差額		-2	21	-7	-40	-27	-86	-81	-100	-147	-147	-116	-38	-770
	達成率		1.00	1.04	0.99	0.92	0.95	0.84	0.84	0.81	0.73	0.72	0.76	0.93	0.88
ケアマネ	件数予算	155件	155	155	155	155	155	155	155	155	155	155	155	155	1,860
	実績		164	161	163	165	161	159	160	158	147	149	144	161	1,892
	差額		9	6	8	10	6	4	5	3	-8	-6	-11	6	32
	達成率		1.06	1.04	1.05	1.06	1.04	1.03	1.03	1.02	0.95	0.96	0.93	1.04	1.02
ケアマネ(予防)	件数予算	5件	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	実績		2	4	2	2	1	1	1	1	0	0	0	0	14
	差額		-3	-1	-3	-3	-4	-4	-4	-4	-5	-5	-5	-5	-46
	達成率		0.40	0.80	0.40	0.40	0.20	0.20	0.20	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.23
ケアマネ(認定調査)	件数予算	5件	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	実績		4	6	5	5	5	5	5	5	5	5	6	4	60
	差額		-1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	-1	0
	達成率		0.80	1.20	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.20	0.80	1.00
きた包括	件数予算		260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260	3,120
	実績		296	300	296	301	293	294	301	300	312	301	298	302	3,594
	差額		36	40	36	41	33	34	41	40	52	41	38	42	474
	達成率		1.14	1.15	1.14	1.16	1.13	1.13	1.16	1.15	1.20	1.16	1.15	1.16	1.15
食事(21食費)	食数予算	38食	988	874	988	988	1,026	988	988	988	988	950	912	912	11,628
	実績		1,017	941	1,044	1,089	1,018	1,017	1,000	994	991	914	920	1,102	12,047
	差額		29	67	56	101	-8	29	12	6	41	2	8	76	419
	達成率		1.03	1.08	1.06	1.10	0.99	1.03	1.01	1.01	1.04	1.00	1.01	1.07	1.04
食事(自由配食)	食数予算	65食	1,625	1,495	1,690	1,625	1,690	1,560	1,625	1,560	1,560	1,495	1,495	1,690	19,110
	実績		1,732	1,594	1,762	1,712	1,782	1,767	1,796	1,712	1,703	1,665	1,617	1,863	20,705
	差額		107	99	72	87	92	207	171	152	143	170	122	173	1,595
	達成率		1.07	1.07	1.04	1.05	1.05	1.13	1.11	1.10	1.09	1.11	1.08	1.10	1.08
合計	収入予算		21,422	19,617	21,477	21,422	22,108	21,431	21,422	21,363	20,859	20,176	20,033	22,108	253,438
	実績		21,548	21,000	22,341	22,542	21,607	21,597	21,588	20,763	20,892	19,605	19,842	23,012	256,337
	差額		126	1,383	864	1,120	-501	166	166	-600	33	-571	-191	904	2,899
	達成率		1.01	1.07	1.04	1.05	0.98	1.01	1.01	0.97	1.00	0.97	0.99	1.04	1.01

【施設整備状況】

(1) 概況説明

設置後 26 年が経過しており、様々な箇所では修繕・メンテナンスの必要が出ている為、施設全体の現状を把握し、必要箇所の優先度を定め計画的に整備を進めている。

(2) 主な固定資産

- 平成 28 年 7 月 2 階地域支援室 エアコン設置 243,000 円

(3) 主な修繕費

- 平成 28 年 8 月 訪問入浴用タンカ 174,942 円
- 平成 28 年 11 月 照明器具取替工事 252,126 円
- 平成 28 年 11 月 真空式温水ヒーター交換 118,800 円
- 平成 28 年 12 月 真空式温水ヒーター循環ポンプ交換 426,600 円

(4) 車椅子対応型軽車両 寄附

- 平成 28 年 12 月 本町センター利用者ご家族より、車椅子対応軽車両「アトレー」の寄贈を受ける。

【その他】

(1) 労働災害発生状況

- 平成 28 年 5 月通所介護介護員が、送迎中頭部を打撲し受診するが異常なし。

(2) 事業者指定申請

- 平成 28 年 10 月小金井市における「介護予防・日常生活支援総合事業」開始にともない、通所介護・訪問介護の事業者指定申請を行なう。
⇒ 指定取得（平成 28 年 10 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

(3) ヨハネホーム創立 30 周年式典

- 平成 28 年 9 月 22 日 多くの関係者を招き、武蔵野スイングホールにてヨハネホーム 30 周年記念式典を開催する。また日頃のヨハネ会高齢福祉部門への貢献に感謝し、ボランティア表彰・職員永年勤続表彰を同時に行う。

2016年度 桜町センター研修実施一覧表（期間 2016/4/1～2017/3/31）

（ 通所介護係・センター全体 ）

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2016/5/12	介護予防	「サービス拠点化事業」説明会	市役所	鈴木治実
2016/5/16	総合	多職種連携研修	宮地楽器ホール	星野廣平
2016/5/20	その他	ICT連携研修会	市医師会館	新田誌帆
2016/6/21,27	感染症	高齢福祉部門合同感染症研修(食中毒)	桜センター	全職員
2016/6/24	介護予防	「サブスタッフ養成」勉強会	萌え木ホール	鈴木治実・大神田豪
2016/6/30	介護予防	「総合事業」説明会	萌え木ホール	鈴木治実
2016/7/14	その他	事業者連絡会通所部会	あんず苑	鈴木治実
2016/7/20	介護予防	「サブスタッフ養成」勉強会	萌え木ホール	鈴木治実
2016/8/3	人材育成	法人内合同研修「山梨障がい部門職場紹介」	戸塚ホール	職員5名出席
2016/8/12	介護	「腰痛予防」について	本町センター	
2016/8/18	介護予防	「サブスタッフ養成」事業所会議	陽なたリハビリ	鈴木治実
2016/8/26	介護予防	「サブスタッフ養成」勉強会	萌え木ホール	鈴木治実
2016/8/31	人材育成	法人合同研修「人材マネジメント」	戸塚ホール	職員5名出席
2016/9/16	認知症	認知症に関する講演会	宮地楽器ホール	職員多数参加
2016/9/27,28,30	感染症	高齢福祉部門合同感染症研修 (ノロ・インフルエンザ対応)	桜センター	全職員
2016/10/6	介護予防	「総合事業」推進協議会	陽なたリハビリ	鈴木治実
2016/10/29	看護	地域包括システムにおける排尿障害の連携	三鷹	三瓶寿美代
2016/11/8	感染症	感染症対応(ノロウイルス)実技研修	桜センター	通所介護職員
2016/11/10	看護	薬剤ヒューマンエラー研修	ヨハネホーム	浦和美恵
2017/1/18	その他	法人内合同研修「難しい職場内の人間関係を考える」	戸塚ホール	職員5名出席
2017/2/4～5	その他	防火・防災管理者研修	神田消防署	鈴木治実
2017/2/8	その他	武蔵野大学「スーパービジョン」研修	武蔵野大学	星野廣平

（ 訪問サービス係 ）

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2016/6/10	介護	車椅子の介助に関して	桜センター	ホームヘルパー
2016/7/8	その他	清掃のコツ、タクティールケア	桜センター	ホームヘルパー
2016/9/9	その他	プライバシーの保護	桜センター	ホームヘルパー
2016/11/11	感染症	ノロウイルス対応、接遇について	桜センター	ホームヘルパー
2017/3/10	介護	着脱に関して、ベッドからの離床	桜センター	ホームヘルパー

(総合給食係)

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2016/11/8	栄養	食形態検索マップの機能と使用方法	多摩府中保健所	山口有昭
2016/11/10	栄養	凍結含浸食セミナー	愛全園	長津宏史

(居宅介護支援係 (桜町ケアマネジメントセンター))

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2016/5/13	その他	コミュニケーション技術(市介護保険課)	萌え木ホール	高野満知子
2016/5/16	その他	医療・介護他職種連携(市医師会)	宮地楽器ホール	高野満知子
2016/5/20	その他	ICTによる多職種連携のための研修会	市医師会館	金丸直子
2016/5/23	認知症	小金井市認知症連携会議	市医師会館	金丸直子
2016/5/30	その他	コミュニケーション技術(市介護保険課)	萌え木ホール	遠藤直美
2016/6/20	虐待防止	高齢者虐待事例検討会	緑寿園	金丸直子
2016/6/30	その他	小地域ケア会議(きた包括支援センター)	萌え木ホール	春日井恵
2016/7/12	事業者連絡会	第1回居宅支援グループ会	貫井北センター	高野満知子
2016/7/20	認知症	認知症高齢者と家族支援のための事例研究	サンメール尚和	遠藤直美・塩田美紀
2016/8/21	その他	ファンリテーター技術研修	明治大学(中野)	金丸直子
2016/9/14	認知症	介護サービス事業者支援研修会	文京区	塩田美紀
2016/9/16	認知症	認知症について	市医師会館	高野満知子
2016/10/18	リスクマネジメント	虐待・リスクマネジメントについて	萌え木ホール	金丸直子
2016/10/22	その他	東京都介護支援専門員研修Ⅱ	西巣鴨	古川ひろみ
2016/10/28	介護予防	フレイル予防	萌え木ホール	高野満知子
2016/11/25	その他	効果的な業務の進め方	前原集会室	金丸直子・古川ひろみ
2016/11/28	看護	暮らしの中の看取り	ヨハネホーム	古川ひろみ
2017/2/9	その他	対応が難しい家族との関わり	前原集会室	金丸直子・遠藤直美・古川ひろみ
2017/2/15	認知症	認知症高齢者と家族支援のための事例研究	サンメール尚和	遠藤直美・塩田美紀
2017/3/23	看護	看取りのための多職種向け研修	渋谷	古川ひろみ

(居宅支援相談係 (小金井きた地域包括支援センター))

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2016/5/26～27	虐待	高齢者虐待等権利擁護研修	新宿	恩田裕美・黒松聡子
2016/6/20～21	総合	都地域包括支援センター新任職員研修	新宿	高野美子
2016/7/9～10	認知症	認知症初期集中支援チーム員研修	渋谷	高野美子
2016/7/15	認知症	地域包括ケア講演会	新宿	増田敏子
2016/8/9～10	認知症	認知症地域支援推進員研修	浴風会	増田敏子
2016/9/1～2	虐待	擁護者による高齢者虐待対応研修	新宿	増田敏子
2016/9/6	その他	精神医医療地域連携事業・地域連携会議	吉祥寺	増田敏子
2016/9/30	認知症	東京都キャラバンメイト養成研修	茗荷谷	高野美子
2016/10/25～26	虐待	擁護者による高齢者虐待対応研修(応用)	新宿	恩田裕子
2016/10/27～28	認知症	認知症地域支援体制推進全国合同セミナー	浴風会	増田敏子
2016/11/4	認知症	認知症支援コーディネーター研修	新宿	増田敏子
2016/11/5	生活支援	居心地の良い居場所づくり	三鷹	中川麻砂子
2017/1/15	認知症	認知症サポート医・かかりつけ医 認知症対応力向上研修	東京都庁	増田敏子
2017/1/17～18	その他	東京都地域包括支援センター職員研修	茗荷谷	恩田裕美・黒松聡子
2017/2/8～9	虐待	擁護者による高齢者虐待対応研修(応用)	茗荷谷	増田敏子・黒松聡子
2017/2/17	認知症	認知症のわたしたちが語り合い、伝える	有楽町	増田敏子
2017/3/8	認知症	「認知症カフェ」と「認とも」を考える	有楽町	増田敏子
2017/3/10	認知症	認知症地域支援推進の活動	品川	増田敏子
2017/3/17	認知症	若年性認知症の事例検討	多摩平	高野美子
2017/3/18	認知症	認知症初期集中支援チーム員研修	小平	増田敏子

Ⅲ 本町高齢者在宅サービスセンター（通所介護、小金井市委託事業）

【平成28年度利用状況報告】

1. 事業別利用率状況（3か年の推移）

種別	定員	1日平均 利用者数	利用率 (H28度)	利用率 (H27度)	利用率 (H26度)
通所介護（一般・予防）	25名	23.6名	94.6%	93.1%	92.2%
認知症型通所介護	12名	10.5名	85.3%	80.0%	80.8%
食の自立支援事業	80名	81.0名	101.3%	106.2%	104.1%

（1）通所介護（予防型・一般型）

①要介護度別実人数・延べ人数

介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
実人数	58	90	377	278	106	40	3	952
割合	6.1%	9.5%	39.6%	29.2%	11.1%	4.2%	0.3%	100.0%
介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延べ人数	201	608	2694	2420	979	540	9	7451
割合	2.7%	8.2%	36.2%	32.5%	13.1%	7.2%	0.1%	100.0%

②基本属性

平均年齢 86歳（最高99歳、最低61歳）

男女比率 男性30%：女性70%

利用登録者 要介護者 72名 要支援者 12名 合計 84名

新規利用者 32名 主な利用理由（在宅での自立生活を保つ為の利用・転倒や認知症予防・趣味活動参加での生きがい作り・入浴希望等）

廃止利用者 29名 主な廃止理由（逝去・施設入所・転居・他サービス利用）

（2）認知症対応型通所介護

①要介護度別実人数・延べ人数

	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
実人数	0	0	12	93	97	74	61	337
割合	0.0%	0.0%	3.6%	27.6%	28.8%	22.0%	18.1%	100.0%
介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延べ人数	0	0	182	819	964	716	545	3226
割合	0.0%	0.0%	5.6%	25.4%	29.9%	22.2%	16.9%	100.0%

②基本属性

平均年齢 83歳（最高100歳、最低67歳）

男女比率 男性22%：女性78%

利用登録者 要介護者 27名 要支援者 0名 合計 27名

新規利用者 6名 主な利用理由（認知症の方の全面的支援認知症ケア・見守り対応・家族介護軽減・その他等）

廃止利用者 12名 主な廃止理由（逝去・施設入所・長期入院）

【職員】

	平成 28 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 29 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1		1							1		1
生活相談員	3		3	1				1		4		4
介護職員		13	13			3	1	3	1		15	15
看護職員		4	4								4	4
栄養士調理		4	4								4	4
宅配員		7	7			3	1	3	1		9	9
食の自立 Co		1	1								1	1
事務員		1	1								1	1
運転員		4	4			2		2			6	6
清掃員		2	2								2	2
合計	4	36	40	1		8	2	9	2	5	42	47

※但し、非常勤兼務者（宅配員と介護員兼務）が2名いる。したがって、非常勤総数（実数）は H28.4.1 が 34 名。H29.3.31 が 40 名となる。

【施設運営状況】

1. 指定管理協定更新の1年目

2016（平成 28）年度は小金井市の指定管理協定の第 4 期（5 か年：2011 年度～2015 年度）を経て、第 5 期（5 か年：2016 年度～2020 年度）の 1 年目。初心に帰り事業に取り組んだ 1 年であった。

というのも過去 5 年間は高齢福祉部門 2 施設（桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター）の財務・組織風土の改善が最重要課題であったからだ。本町センターは 2 施設の後押しをするためかなりの時間と労力をこの間割いてきたが、おかげさまで 5 年間の集大成として 2015（平成 27）年度に財務・組織風土の改善を軌道に乗せることに成功した。

そこで、2016（平成 28）年度は、部門の更なる飛躍にむけ 2017（平成 29）年度～2019（平成 31）年度の 3 か年に亘る中期経営計画を策定することとした。この中期経営計画のポイントは、SWOT 分析にかなりの時間をかけ確かな根拠をもって計画を立案した点、そして経営戦略において向こう 3 年間人材育成を経営基盤の最重要課題とした点にある。

単年度事業計画は、この中期経営計画をもとにしっかりと落とし込みを行い、将来に向け更に効果的で実行力のあるものにしてゆく。

2. 財務改善の取組み

2015（H27）年度制度改定は在宅サービスの介護報酬費を平均 2.27%の引き下げ率としたが、通所介護サービス（一般型・認知症対応型）の介護報酬費は、平均 9.5%の引き下げ率で在宅サービス全体の下げ幅よりもさらに 7.23%低く抑制された。また、本報酬引き下げを補うための加算も取得要件に様々な手間を義務付けられ加算を取得しにくくされるなど、通所介護事業経営にはかなり向かい風となる改定となっている。

これに対し、部門では 2015 年度に一旦その役目を終えた財務改善プロジェクトのながれを引き続き活かし運営会議においては、各事業の利用率の確認や課題解決に取り組んだ。おかげさまで、本町センターの利用率は予防・一般型通所介護で 94.6%、認知症対応型通所介護で 85.3%と過去最高値を残し、職員の経営マネジメントに対する意識が醸成されてきたことを感じている。

本年度（2016（H28）年度）決算では、資金収支会計で、当期資金収支差額合計（運転資金）

は借入金なく、882万4千円の黒字。事業活動収支会計では、サービス活動増減差額（本業での利益）は1,403万。経常増減差額（総合的収益性）では1,370万円、当期活動増減差額（1年間の経営成績）は、1,384万円の黒字であった。

事業活動収支会計における介護保険事業収益は前年度比100.6%と上がっているが、今年度は人件費が前年度比109.1%と増えているため資金収支差額は昨年度に比べ目減りした結果となっている。具体的な理由は、相談員の退職予定にともなう常勤雇用を行い、引継ぎ期間を半年以上持っていることによる。その他支出に関してはほぼ前年並みか抑えている実態である。（参考値：人件費率77.6%）

一部、事業収支会計の事業費・事務費の業務委託費で100万円以上のひらきがあるのは、2つのセンター間で事務管理部と栄養部の人件費精算を行った結果となっている。また、給食費が予算の約90%に留まったのは、このところの原油高騰などによる食材費高騰を見込んだ当初予算を補正予算時に特に修正しなかったことによる。

（1）組織規程にもとづく新たな組織運営の定着に向けて

- 部門経営会議には課長、運営会議に係長以上の職員の参加を義務付け、経営課題の共有と対策検討を定例化した。
- とはいえ、まだ人材育成が追い付く状況にはなく係長・課長職ともに未配置係課が多い実態である。そのため、課題解決の検討をすすめるための部長会議は月曜日、金曜日の時間外（17時～20時）、それでも不足する場合は土曜日（AMもしくはPMの3時間程度）も出勤して課長不在の組織実態を補っている状況にある。

（2）祝日営業による年間営業日数増（祝日営業12日により年間営業日数は306日）

- ゴールデンウィーク、年末年始以外の祝日営業日は以下の通り
①昭和の日（4/29）②海の日（7/18）③山の日（8/11）④敬老の日（9/19）⑤秋分の日（9/22）⑥体育の日（10/10）⑦文化の日（11/3）⑧勤労感謝の日（11/23）⑨天皇誕生日（12/23）⑩成人の日（1/9）⑪建国記念日（2/11）⑫春分の日（3/20）

（3）在宅サービス部運営会議の開催

- 実施日時：毎月第1・3水曜日 17:45～（於：桜町センター2階会議室）
- 実施内容：
 - ①2週間ごとの稼働率チェック
 - ②1か月ごとの稼働率、収入達成状況のチェック（対予算ベース）
 - ③1か月ごとの資金繰りチェック
 - ④財務改善ルールの実施状況についてのモニタリングと意見交換

【利用者支援状況】

1. サービス方針に則った取組み

1) 人格を尊重した福祉の実践

（1）労務環境改善取組み

- ①「異業種から学ぶ！社員を大切にする経営の在り方」講演会出席（4月）
- ②新任研修振り返り交流会（4月）
- ③処遇改善計画の立案・実施
 - ・賃金改善、介護負担軽減（腰痛ベルト支給）、国家資格受験料助成、健康管理支援（メンタルヘルスチェック、健康診断オプション検査助成）
- ④手当の見直し
 - ・看護師手当の創設準備
- ⑤永年勤続表彰内規の作成・実施
- ⑥雇用の促進
 - ・ハローワーク、福祉のお仕事（福祉人材センター、福祉人材バンク）、インターネット、新聞折り込み、スカウトメールなど多様な媒体を活用

- ・送迎運転員の追加雇用 2 名
- ・配食宅配員の追加雇用 2 名
- ⑦設備備品の充実
 - ・2 階フロア用 PC の購入 (2 階 8 月)
 - ・生活相談員用デスクトップ PC の購入 (1 月)
 - ・訪問用電動自転車の購入 (2 台目)
 - ・福祉車両 (軽自動車) の買換え (ワゴン R⇒スペース)
 - ・給食台車の車輪交換 (8 月)
- ⑧福利厚生アンケートの実施 (7 月)
- ⑨腰痛予防
 - ・研修会 (11 名 8 月)、腰痛ベルトの支給 (10 月)
- ⑩暑気払い (職員懇親会 8 月)
- ⑪グリストラップ清掃 (3 月)
- ⑫MCS (メディカルケアステーション) グループ登録 (8 月)
- ⑬コミュニケーション力の改善
 - ・「難しい職場の人間関係を考える」研修への参加 (4 名 1 月)

(2) 人材育成取組み

- ①理念に則った支援の遂行
 - ・事業計画キックオフ会議
 - ・職員会議の活用 (四半期ごとの振り返り)
 - ・「大切にしている取組み ～明日への試み～」障害部門職場紹介への参加 (2 名 8 月)
 - ・「よき援助者に求められるものは～日々の働きを振り替えつつ考える」(2 名 10 月)
 - ・コンプライアンス研修「ヨハネ会スピリット」(4 名 10 月)
- ②権利擁護の意識醸成
 - ・「社会福祉事業従事者人権研修Ⅰ」への出席 (2 名 9 月・10 月)
 - ・「社会福祉事業従事者人権研修Ⅱ」への出席 (2 名 10 月・11 月)
 - ・「介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修 (通所系)」への出席 (1 名 11 月)
- ③セルフチェック
 - ・虐待の芽チェックリストの実施
- ④ストレス対策
 - ・「ストレス対策」～ストレスと上手につきあうために～研修への出席 (3 名 11 月)
- ⑤リーダー育成
 - ・「現場リーダーのための人材マネジメント開発 基礎編」への出席 (4 名 8 月)
- ⑥中期経営計画の立案
 - ・人財育成を最優先課題とした。
 - ・人財育成のスキームを作成し単年度事業計画への落とし込めるよう準備した。
 - ・求める職員像や職責別職務内容を明らかにした。

(3) その人らしさの追求取組み

- ①事例勉強会の定期開催
 - ・毎月第二水曜日 18:00
- ②障害高齢者の受入促進
 - ・車椅子送迎体制の充実 (車椅子対応軽自動車の購入)
- ③理美容サービスの提供
 - ・床屋や美容室に行けない方に対しセンターで理美容サービスを提供している。
 - ・予約制 月 1 回
- ④身だしなみチェック・清潔整容

- ・髭や髪の毛の乱れ、爪や手指の汚れ、服装やメガネなどの汚れなどを毎朝チェックし、清潔整容を保つことができるようご家族と連携しながらケアをしている。

(4) 楽しみ、張り合い、心地よさの追求取組み

- ① イベント（映画鑑賞、コンサートなど）実施環境の改善
 - ・ 暗幕用カーテンレールの取付
 - ・ ロールスクリーンの購入
 - ・ 暗幕用カーテンの購入・設置（2階：ネイビー、3階：ワインレッド）
 - ・ 音響機器の購入
- ② 食の楽しみ
 - ・ 行事食拡大（聖ヨハネホーム創立記念行事食など）
 - ・ 口腔ケア技術習得セミナーの主催
 - ・ 配食容器の追加購入（・汁容器（50個）、弁当容器（40個））
- ③ 外出の楽しみ
 - ・ 「外出アンケート」の結果をふまえ、ご利用者様の希望する外出先にお連れする企画を実施した。
- ④ 一般型デイ・認知症対応型デイ合同行事企画による行事の充実
 - ・ 納涼祭、敬老会、クリスマス忘年会
- ⑤ トイレ環境の心地よさ
 - ・ ご利用者トイレの全面ウォシュレット化（ウォシュレットトイレの購入）
- ⑥ 介護予防・日常生活支援総合事業に係る説明会への出席

2) 安全と安心の提供

(1) 医療と介護の連携

- ・ ヨハネ会医療とはヨハネホーム嘱託医チームとの交わりを深め、連携の素地づくりに努めた1年であった。12/1に桜町病院が実施した認知症カフェへも参加している。
- ・ 小金井医師会との連携事例として、重度認知症高齢者の看取り事例があった。本町センターと在宅診療を行っている医師・看護師チームが協働して取り組んだ事例である。
- ・ ICTによる多職種連携のための研修会参加（3名5月）
- ・ 「桜町病院における退院支援の実際」研修への参加（3名6月）
- ・ 「口腔ケア技術習得セミナー」の企画実施（15名6月）
- ・ 「桜町病院における地域医療連携室の役割」研修への参加（7名11月）

(2) フィットニングサポート

- ・ 単身世帯や高齢者世帯はキーパーソンが不在のため、受診に繋がりにくく、その結果、病状の悪化や重度化を来しやすい。そこで、本町センターでは、こうしたケースに対し病気の初期発見・初期初期治療につなげるための受診介助（無償行為）を積極的に展開している。

(3) 適切な認知症ケアの提供

- ・ 「平成28年度東京都認知症介護基礎研修」への参加（3名7月・2月）

(4) 感染症予防取組み

- ・ 本年度は感染性胃腸炎の発症者は少なかったが、都内インフルエンザの罹患者は1月16日から1月22日までにおいて急速に増加し「流行警報基準」を超えていたが、センター職員をはじめ利用者もこの時期は罹患者が散見された。
- ・ しかし、上記予防取組みの徹底により稼働率の大幅な低迷に繋がることはなく、結果としては今年度も予防取組が行き届いたと実感している。

- ① 感染症対策委員会、安全衛生委員会の活動
 - ・ 手洗いチェッカーによる手洗いチェック研修

- ・「感染症研修～食中毒予防対策研修～」参加
- ・ノロウイルス発生時シミュレーションの実施とルール確立
- ・「ノロウイルスを想定したシミュレーション」(12名12月)
- ・インフルエンザ予防接種、検便検査
- ・ノロキット配備(車輻・建物)
- ・次亜塩素消毒薬による建物設備消毒
- ・ノロキット用塩素消毒薬の毎日交換
- ・メディカルマスクの購入(感染症対策予防期間職員ならびに必要時は利用者にも配布)
- ・インフルエンザ予防接種・検便検査
- ②本町センターの感染症予防環境対策
 - ・二酸化塩素発生用品の購入設置による空間除菌実施
 - ・加湿器の新規購入設置、定期清掃
 - ・朝礼時の注意喚起(健康チェック、マスクエチケット、手洗い、手指消毒、うがい)
 - ・入館ルールの徹底(手指消毒薬の配備と案内掲示)
 - ・業務用カーペットクリーナー購入(6月)
- ③東京都水道局より貯水槽水道優良証を受理(2017.11.1)
 - ・安全で清潔な水道水の提供

(5) 事故災害対策

①介護事故

- ・転倒事故3件

いずれも近位監視が必要な方であったが、介護行為中に目を離し、傍から離れてしまったことで事故につながった。事故がいずれもほんの一瞬で起きている実態から介護行為中に転倒リスク者への注意持続が課題となっている。

⇒再発防止のためには、「たぶん大丈夫だろう」ではなく「もしかしたら危ないかもしれない」と常に危険を予知しながら職務に従事するKYT(危険予知トレーニング)をOJTで徹底させることに努めている。しかし、現場にKYTの実践を徹底させるマネジャーの育成が追い付いておらず課題となっている。

②ヒヤリハット

- ・ヒヤリハットは、予防デイ・一般デイで年間37件(昨年度32件)。認知デイで6件(昨年度9件)、合計43件であった。
- ・43件中、最も多いヒヤリハットは送迎関係のもので12件(27.9%)あった。送迎の遅延、送迎忘れ、施錠し忘れなどであるが、準備不足、確認不足を原因とする内容であった。
- ・次に多かったのは転倒誤嚥などの介護事故に係るヒヤリハット10件(23.2%)であった。KYT(危険予知トレーニング)をOJTで強く推進しているが、徹底できない職員がまだいる。
- ・三つ目以降は以下の通り。感染症関係で7件(16.3%)、与薬関係で6件(14%)、個人情報関係で5件(11.7%)、その他3件(6.9%)

③車輻事故

- ・1件。対物事故。

デイの帰宅送迎時のこと。ご利用者宅に寄せるクランクでハンドルを左に切った際、スライドドアを塀の角に擦る事故が発生した。

⇒事故後、ドライブレコーダーで確認を行ったが、明らかに安全運転不履行であった。レコーダーの映像記録を保険会社に預け自損事故として取り扱い修理を行った。再発防止のために事故映像は職員会議等で複数回に亘り見せて共有し、事故原因や事故予防のポイントを確認しあった。そして、運転員による相互研修機会をつくり、互いの

運転技術につき指導しあう機会をつくった。

④苦情

- ・特になかった。事故災害対策

⑤防災委員会

- ・災害時自動参集方法の定着化と web171 訓練の実施

⑥防災訓練・防災環境の整備と強化

- ・自衛消防計画の立案実施（毎月 1 回計 12 回の防災訓練を実施した）

自衛消防隊による通報、初期消火、避難誘導訓練、トラッキング防止清掃など

- ・防火対象物定期点検（7 月）

- ・消防用設備点検（10 月）

⑦救急救命講習受講

- ・配食サービス従事者（コーディネーター、宅配員）は全員受講完了

- ・上級救命ステップアップ講習への参加（1 名 12 月）

- ・普通救命講習への参加（8 名/年間）

⑧送迎車輛事故予防環境の整備

- ・全車輛スタッドレスタイヤの装着（冬季）

- ・軽自動車の買換え（スズキワゴン R⇒スズキスペーシア）

- ・ドライブレコーダーの設置（スマイル号、1 号車、スペーシア）

- ・運転技術指導相互研修の実施

⑨介護事故予防

- ・チェアインタイプ機械浴槽フローコントロールカートリッジ交換（7 月）

- ・チェアインタイプ機会浴槽送湯用モーターバルブ交換（2 月）

- ・「特殊入浴機器購入背景と機器選定基準と希望について」市に提出（9 月）

- ・「福祉車両買替購入背景と選定基準及び希望について」市に提出（9 月）

- ・薬剤ヒューマンエラー研修への参加（2 名 11 月）

- ・「平成 28 年度小金井市介護職員現任研修」

（嚙む・飲み込むが困難な人の食事）（1 名 12 月）

（身体の構造を知り、介護に活かす）（1 名 2 月）

（業務における観察・気づき、アセスメント技術、記録の書き方等）（1 名 3 月）

⑩階段踊り場ガラスコーキング修理

3) 地域との共生

(1) 認知症に強い街づくりへの取組み

- ・小金井きた地域包括支援センターの生活支援コーディネーターとともに、地元けやき通り商店会と認知症高齢者の見守り支援に関して地域で支え合うための連携について定期的な話し合いを持つ準備に入った。

①認知症を支える介護者の集い

- ・毎月第一土曜日 13 時 30 分～15 時

(2) ボランティア受入体制整備の取組み

①「小金井市介護支援ボランティアポイントの事業説明会」への参加（2 名 7 月）

②募集広告

- ・ホームページの活用（ボランティア関連情報欄を掲載できるようにした。）

③イベントボランティアの充実

- ・篠笛ボランティア

- ・人形劇ボランティア

- ・声楽ボランティア

(3) 地域とのつながりづくり

- ①小金井市指定地域密着型サービス運営推進会議の発足
 - ・2016（平成28）年度より地域密着型通所介護事業所は運営推進会議の開催が年2回以上義務付けられた。（10月、3月に開催）
 - ・地域密着型通所介護事業が地域に開かれたサービスとなることを目的とし、サービスの質の確保を目的としている。
- ②けやき通り商店会主催「小さなお祭り」
 - ・トイレ、食堂の開放、イベントボランティア控え室提供
- ③本町2丁目町会活動場所の提供
 - ・趣味、コーラス、体操、雑学グループ活動
- ④防災協定にもとづく防災倉庫の設置継続・火の用心開始拠点
- ⑤納涼祭へのご協力（4丁目町会からの綿あめ機械貸出）

【施設整備状況】

(1) 概況説明

1998（H10）年10月開設から18年が経過し、建物設備共に劣化が進んでいる。開設当初購入した設備備品は故障が生じてもメーカーの部品共有が厳しい実態で、買換えや大規模改修を余儀なくされる状況にあると判断している。特に危機的な状況にある設備は、①冷暖房空調設備（GHP）②屋上防水シート③エレベーター。備品では④福祉車両2台（いずれも10万kmオーバー）⑤特殊入浴機器（18年）である。

この状況は指定管理委託元である小金井市へも所轄の高齢福祉係を通じ報告し、毎年見積書を届け予算化をお願いしている。今年度は上記①について急遽小金井市と法人で修繕費を捻出し修理をすすめた。（後述に詳しい。）

本町センターは市より福祉二次避難所としても協定を結んでいることから、いざというときの建物設備の不具合は被災時に市民に大きな不安を与えることになりかねないと考えられる。その点からも引き続き市には実情を報告し予算化をお願いしてゆく。

(2) 主な固定資産

- ノートパソコン（富士通エスプリモ D552/NX） ￥103,464
- カーテン（2階：ネイビー、3階：ワインレッド） ￥114,523
- カーテンレール（2階、3階） ￥135,000
- スズキスペーシア（車椅子乗車可能軽福祉車両） ￥1,722,581

※ワゴンR（初年度登録平成11年5月）が走行距離8万kmに及び修理費が高んでいた。日本財団の車輛購入助成は申請しても却下されるため、自前で新車購入に踏み切った。

(3) 主な修繕費

①市の財源にて修繕したもの

- ・空調機（SGP-CH500G1N）2017年2月24日
コンプレッサーオイル漏れ、室外機部品破損
- ・業務用自動ガス遮断装置取替工事

②本町センターにて修繕したもの

5月31日	厨房空調室外機(YNPJ140E1N)漏電配線復旧	¥41,796
2月2日	ガスヒーポンスポット点検(3機)	¥48,600
2月24日	GHP修理(YNZJ280E1N(H))閉鎖弁ガス、オイル、ベルト、電動三方弁など	¥228,793
2月24日	GHP修理(SGP-CH450G1N)排気ドレン、プラグ、エアフィルター、オイルフィルター	¥98,236
	空調関係修理費小計	¥417,425
11月30日	入浴機器修理代	¥14,040
1月31日	入浴機器修理代	¥14,796
10月27日	フローコントロールカートリッジ修理	¥38,523
12月16日	便座取替工事(ウォシュレット化)	¥167,400
2月22日	送湯用モーターバルブ交換	¥190,728
2月23日	保守点検費	¥40,284
	入浴機器修理費小計	¥465,771
11月2日	ガラスコーキング(2F,3F)修繕	¥94,500
9月30日	厨房機器コンプレッサー修理	¥17,280
10月19日	厨房エアコン、短絡絶縁不良	¥25,164
11月25日	厨房電気設備修理(LED化)	¥52,000
	その他修理費小計	¥188,944
3月2日	グリストラップ清掃、経路排水管高水圧洗浄、マニフェスト	¥101,520
	合計	¥1,173,660

【その他】

・第三者サービス評価会議

これまで民間企業出身者であり社会福祉士資格もお持ちであった第三者委員の吉田昌克氏が体調不調を理由に第三者委員の退任意向があった。サービス業務向上委員会では、苦情対応等への的確なコメントをくださり、何よりも第一線で奮闘している職員のご苦勞に温かな励ましの言葉をかけてくださったことにこの場をお借りし深く感謝申し上げたい。

今後は、大学教員(教授・准教授)、学識経験者(大学名誉教授)・社会福祉施設経営者、会社経営者、キリスト教聖職者などから候補者を選定し選任させていただき、第三者委員チームを創りあげる予定としている。新たに第三者委員チーム体制が構築できれば、多角的なご意見をいただける機会となるので、私たちはこれまで以上にサービス業務向上のための努力を重ねてゆきたいと考えている。

・ホーム創立30周年記念行事とボランティア委員会

ボランティア委員会では今年も委員長を務めた。今年は、桜町聖ヨハネホームが創立30周年を迎えたことから、30周年記念行事として式典と記念誌作成の支援を行うこととなった。具体的には記念式典でのボランティア表彰準備、記念誌はボランティアの声をボランティア委員会が広報委員会(かしの木担当)などと連携しながら特集を組んだ。

・広報委員会(ホームページ担当)

今年も委員長を務めた。ホームページの効果的運用を定例化すべく、ホームページの更新を各施設に義務付け定期的にチェックし、更新内容を職員に周知させるしくみを構築した。

・事業計画書まとめ

昨年度に引き続き事務管理部での事業計画書のとりまとめが難しいとのことから編集作業を行った。

・熊本地震義援金

東京都社会福祉協議会を通じ、本町センターとして¥52,637を熊本県へ送金した。

【事業状況】(利用実績集計表・利用率の推移)

事業別 2016(H28)年度 利用実績集計表 2016年4月～2017年3月 本町高齢者在宅サービスセンター

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介護保険	通所介護・一般 日数	26	23	26	26	27	26	26	26	25	24	24	27	306	
	25名/日 定員	650	575	650	650	675	650	650	650	625	600	600	675	7,650	
	介護給付 (20人想定)	登録数	62	67	72	70	67	66	69	70	68	63	63	67	-
		実利用者数	62	67	72	70	67	66	69	70	68	63	63	67	-
		延利用者数	511	485	568	557	554	542	561	555	529	500	487	573	6,422
		人数/日当	19.7	21.1	21.8	21.4	20.5	20.8	21.6	21.3	21.2	20.8	20.3	21.2	21.0
	利用率	98.3%	105.4%	109.2%	107.1%	102.6%	104.2%	107.9%	106.7%	105.8%	104.2%	101.5%	106.1%	104.9%	
	予防給付 (5名想定)	登録数	12	14	14	12	11	11	13	13	12	12	12	12	-
		実利用者数	12	14	14	12	11	11	13	13	12	12	12	12	-
		延利用者数	66	61	68	64	63	60	75	72	71	68	68	68	804
		人数/日当	2.5	2.7	2.6	2.5	2.3	2.3	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	3.0	2.6
	利用率	50.8%	53.0%	52.3%	49.2%	46.7%	46.2%	57.7%	55.4%	56.8%	56.7%	56.7%	59.1%	52.5%	
	小計	延利用者数	577	546	636	621	617	602	636	627	600	568	555	641	7,226
	利用率	88.8%	95.0%	97.8%	95.5%	91.4%	92.6%	97.8%	96.5%	96.0%	94.7%	92.5%	95.0%	94.5%	
事業	通所介護・認知症 日数	26	23	26	26	27	26	26	26	25	24	24	27	306	
	12名/日 定員	312	276	312	312	324	312	312	312	300	288	288	324	3,672	
	登録数	27	26	29	30	29	29	28	27	27	27	27	27	-	
	実利用者数	27	26	29	30	29	29	28	27	27	27	27	27	-	
	延利用者数	261	227	275	282	275	290	277	264	277	252	253	293	3,226	
	人数/日当	10.0	9.9	10.6	10.8	10.2	11.2	10.7	10.2	11.1	10.5	10.5	10.9	10.5	
	利用率	83.7%	82.2%	88.1%	90.4%	84.9%	92.9%	88.8%	84.6%	92.3%	87.5%	87.8%	90.4%	87.9%	
	通所介護合計	実利用者数	101	107	115	112	107	106	110	110	107	102	102	106	-
	延利用者数	838	773	911	903	892	892	913	891	877	820	808	934	10,452	
	※通所介護全体利用率	87.1%	90.8%	94.7%	93.9%	89.3%	92.7%	94.9%	92.6%	94.8%	92.3%	91.0%	93.5%	92.3%	
	家族介護者教室	回数	/	/	/	/	/	/	/	1	/	/	/	/	1
	利用者数	/	/	/	/	/	/	/	/	11	/	/	/	/	11
	認知症高齢者家族交流	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	利用者数	9	8	8	6	5	9	6	9	5	6	15	5	91	
食の自立支援事業	食の自立支援事業 日数	25	23	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293	
	80人/日 定員	2000	1840	2080	2000	2080	1920	2000	1920	1840	1840	1840	2080	23,440	
	①②③⑤ 延食数	2068	1874	2142	1984	2013	1910	2009	1931	1880	1894	1884	2160	23,749	
	利用率	103.4%	101.8%	103.0%	99.2%	96.8%	99.5%	100.5%	100.6%	102.2%	102.9%	102.4%	103.8%	101.3%	
	①配食サービス	登録数	203	198	199	193	200	198	192	194	193	194	192	198	-
		実利用者数	189	196	185	180	182	183	186	188	188	186	183	188	-
		延食数	2064	1870	2132	1977	2002	1908	1998	1925	1876	1888	1874	2160	23,674
		食/日当	82.6	81.3	82.0	79.1	77.0	79.5	79.9	80.2	81.6	82.1	81.5	83.1	80.8
	利用率	103.2%	101.6%	102.5%	98.9%	96.3%	99.4%	99.9%	100.3%	102.0%	102.6%	101.8%	103.8%	101.0%	
	②緊急配食	実利用者数	0	0	1	0	1	0	1	1	0	1	1	1	11
		延食数	0	0	6	0	6	0	5	1	0	2	6	6	32
	③活動会食サービス	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		延利用者数	4	4	4	7	5	2	6	5	4	4	4	4	53
	④いっぴくカフェ (閉じこもり防止)	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
延利用者数		7	5	6	5	4	6	5	6	6	6	4	5	65	
⑤栄養マネジメント (自立推進クラブ)	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑥調査・ケアプラン 新規・継続	回数	8	9	13	10	9	10	10	7	4	8	4	12	104	
独自事業	高齢者見守りサービス	実利用者数	2	1	1	1	0	2	1	1	3	1	3	19	
	パーチャタイム(自費)	延利用者数	2	1	2	1	4	3	1	1	4	3	3	28	
	地域社会支援①	回数	8	6	8	7	0	8	8	6	6	4	8	8	77
		元気です本町2丁目会等	延人数	59	39	52	53	0	49	53	35	42	16	46	495
	地域社会支援②	回数	4	4	5	4	4	1	/	/	/	/	/	/	22
		いきいき健康クラブ	延人数	16	18	25	18	16	4	/	/	/	/	/	97
	日常生活支援 (各種相談対応等)	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10
	ボランティア活動	実人数	40	37	41	44	31	46	41	38	42	38	43	37	-
		延人数	110	94	105	119	114	158	103	102	119	90	103	106	1,323
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計

【教育研修一覧】

2016年度 本町高齢者在宅サービスセンター 研修計画・実施一覧表(1)

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2016/4/16	救命・防災	普通救命講習	小金井消防署	高野 幸子
2016/4/22	労務環境改善	東社協 「異業種から学ぶ！社員を大切に経営のあり方」	飯田橋	山極 愛郎
2016/5/9	新任研修	桜町S.C包介護支援専門員	本町センター	高野 美子
2016/5/20	医療と介護の連携	第2回 ITCによる多職種連携のための研修会	小金井市医師会	西村 貴子
2016/5/20	医療と介護の連携	第2回 ITCによる多職種連携のための研修会	小金井市医師会	山田 知子
2016/5/25	消防・防災	自衛消防訓練合同指導会	小金井消防署	郷原 弥生
2016/6/15	運転	送迎運転実技研修	本町センター	山極 愛郎
2016/6/15	運転	送迎運転実技研修	本町センター	川村 八千代
2016/6/15	運転	送迎運転実技研修	本町センター	吉田 貴夫
2016/6/15	運転	送迎運転実技研修	本町センター	二戸 正子
2016/6/15	医療と介護の連携	桜町病院における退院支援の実際	戸塚ホール	山田 知子
2016/6/15	医療と介護の連携	桜町病院における退院支援の実際	戸塚ホール	清水 香名子
2016/6/15	医療と介護の連携	桜町病院における退院支援の実際	戸塚ホール	西村 貴子
2016/6/16	運転	送迎運転実技研修	本町センター	中道 武
2016/6/17	運転	送迎運転実技研修	本町センター	佐藤 栄一
2016/6/18	救命・防災	普通救命講習	小金井消防署	安藤 光
2016/6/18	救命・防災	普通救命講習	小金井消防署	久保 あゆみ
2016/6/20	運転	送迎運転実技研修	本町センター	松田 章文
2016/6/23	運転	送迎運転実技研修	本町センター	岡本 径子
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	西村 貴子
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	久保 あゆみ
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	川村 八千代
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	山田 知子
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	吉田 貴夫
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	岡本 径子
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	郷原 弥生
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	宮本 安代
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	野口 照代
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	二戸 正子
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	益井 加代子
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	清水 香名子
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	吉野 遼
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	高野 幸子
2016/6/27	口腔ケア	口腔ケア技術習得セミナー	本町センター	大木 清美
2016/6/30	介護予防	介護予防・日常生活支援総合事業に係る事業者説明会	萌え木ホール	山田 知子
2016/6/30	介護予防	介護予防・日常生活支援総合事業に係る事業者説明会	萌え木ホール	吉田 貴夫
2016/6/30	地域支援	小金井きた包括支援センター小地域ケア会議	萌え木ホール	山極 愛郎

2016年度 本町高齢者在宅サービスセンター 研修計画・実施一覧表(2)

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2016/6/30	地域支援	小金井きた包括支援センター小地域ケア会議	萌え木ホール	川村 八千代
2016/7/1	新任研修	職員新任研修	本町センター	市村 直子
2016/7/2	運転	送迎運転実技研修	本町センター	山口 俊一郎
2016/7/13	ボランティア	小金井市介護支援ボランティアポイント事業説明会	萌え木ホール	山田 知子
2016/7/13	ボランティア	小金井市介護支援ボランティアポイント事業説明会	萌え木ホール	市村 直子
2016/8/3	経営	第3回 職場紹介	戸塚ホール	山極 愛郎
2016/8/3	経営	第3回 職場紹介	戸塚ホール	吉田 貴夫
2016/8/12	労務環境改善	介護労働安定センター出張講座 腰痛予防	本町センター	吉田 貴夫
2016/8/12	労務環境改善	介護労働安定センター出張講座 腰痛予防	本町センター	高野 幸子
2016/8/12	労務環境改善	介護労働安定センター出張講座 腰痛予防	本町センター	山田 知子
2016/8/12	労務環境改善	介護労働安定センター出張講座 腰痛予防	本町センター	川村 八千代
2016/8/12	労務環境改善	介護労働安定センター出張講座 腰痛予防	本町センター	西村 貴子
2016/8/12	労務環境改善	介護労働安定センター出張講座 腰痛予防	本町センター	岡本 径子
2016/8/12	労務環境改善	介護労働安定センター出張講座 腰痛予防	本町センター	久保 あゆみ
2016/8/12	労務環境改善	介護労働安定センター出張講座 腰痛予防	本町センター	市村 直子
2016/8/12	労務環境改善	介護労働安定センター出張講座 腰痛予防	本町センター	宮本 安代
2016/8/12	労務環境改善	介護労働安定センター出張講座 腰痛予防	本町センター	坂本 広子
2016/8/12	労務環境改善	介護労働安定センター出張講座 腰痛予防	本町センター	清水 香名子
2016/8/19	認知症	認知症サポーター養成講座	桜町センター	安藤 光
2016/8/20	救命・防災	普通救命講習	小金井市消防署	大木 清美
2016/8/31	リーダー育成	法人合同研修 「現場リーダーのための人材マネジメント」	戸塚ホール	川村 八千代
2016/8/31	リーダー育成	法人合同研修 「現場リーダーのための人材マネジメント」	戸塚ホール	山田 知子
2016/8/31	リーダー育成	法人合同研修 「現場リーダーのための人材マネジメント」	戸塚ホール	吉田 貴夫
2016/8/31	リーダー育成	法人合同研修 「現場リーダーのための人材マネジメント」	戸塚ホール	市村 直子
2016/9/1	権利擁護	社会福祉事業従事者人権研修【Ⅰ】	茗荷谷	益井 加代子
2016/9/17	救命・防災	普通救命講習	小金井消防署	市村 直子
2016/10/5	権利擁護	社会福祉事業従事者人権研修【Ⅰ】	茗荷谷	吉野 遼
2016/10/7~31	理念	コンプライアンス研修(E-ラーニング)	本町センター	山極 愛郎
2016/10/7~31	理念	コンプライアンス研修(E-ラーニング)	本町センター	吉田 貴夫
2016/10/7~31	理念	コンプライアンス研修(E-ラーニング)	本町センター	川村 八千代
2016/10/7~31	理念	コンプライアンス研修(E-ラーニング)	本町センター	山田 知子
2016/10/7~31	理念	コンプライアンス研修(E-ラーニング)	本町センター	市村 直子
2016/10/15	救命・防災	普通救命講習	小金井消防署	坂本 広子
2016/10/19~21	理念	日本カトリック老人施設協会全国研修大会	広島	山極 愛郎
2016/10/19~21	理念	日本カトリック老人施設協会全国研修大会	広島	市村 直子
2016/10/24	権利擁護	社会福祉事業従事者人権研修【Ⅱ】	茗荷谷	川村 八千代
2016/11/17	介護事故予防	薬剤ヒューマンエラー研修	ヨハネホーム	清水 香名子
2016/11/17	権利擁護	介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修(通所系)	新宿	山極 愛郎

2016年度 本町高齢者在宅サービスセンター 研修計画・実施一覧表(3)

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2016/11/19	救命・防災	普通救命講習	小金井消防署	中橋 重友
2016/11/19	救命・防災	普通救命講習	小金井消防署	岡田 愛子
2016/11/29	権利擁護	社会福祉事業従事者人権研修【Ⅱ】	茗荷谷	高野 幸子
2016/11/29	労務環境改善	「ストレス対策」メンタルヘルス研修	ヨハネホーム	西村 貴子
2016/11/29	労務環境改善	「ストレス対策」メンタルヘルス研修	ヨハネホーム	久保 あゆみ
2016/11/29	労務環境改善	「ストレス対策」メンタルヘルス研修	ヨハネホーム	益井 加代子
2016/11/30	医療と介護の連携	桜町病院における地域医療連携室の役割	戸塚ホール	山極 愛郎
2016/11/30	医療と介護の連携	桜町病院における地域医療連携室の役割	戸塚ホール	吉田 貴夫
2016/11/30	医療と介護の連携	桜町病院における地域医療連携室の役割	戸塚ホール	川村 八千代
2016/11/30	医療と介護の連携	桜町病院における地域医療連携室の役割	戸塚ホール	山田 知子
2016/11/30	医療と介護の連携	桜町病院における地域医療連携室の役割	戸塚ホール	市村 直子
2016/11/30	医療と介護の連携	桜町病院における地域医療連携室の役割	戸塚ホール	清水 香名子
2016/11/30	医療と介護の連携	桜町病院における地域医療連携室の役割	戸塚ホール	西村 貴子
2016/12/8	救命・防災	上級救命ステップアップ講習会	麴町消防署	西村 貴子
2016/12/14	感染症対策	感染症シミュレーション研修	本町センター	近江 星樹
2016/12/14	感染症対策	感染症シミュレーション研修	本町センター	西村 貴子
2016/12/14	感染症対策	感染症シミュレーション研修	本町センター	久保 あゆみ
2016/12/14	感染症対策	感染症シミュレーション研修	本町センター	山田 知子
2016/12/14	感染症対策	感染症シミュレーション研修	本町センター	市村 直子
2016/12/14	感染症対策	感染症シミュレーション研修	本町センター	高野 幸子
2016/12/19	介護	平成28年度小金井市介護職員現任研修	東小金井	郷原 弥生
2017/1/11~2/10	理念	コンプライアンス研修(E-ラーニング)	本町センター	本町センター 生活相談員・介護員・看護師
2017/1/18	労務環境改善	難しい職場の人間関係を考える	戸塚ホール	久保 あゆみ
2017/1/18	労務環境改善	難しい職場の人間関係を考える	戸塚ホール	大木 清美
2017/1/18	労務環境改善	難しい職場の人間関係を考える	戸塚ホール	高野 幸子
2017/1/18	労務環境改善	難しい職場の人間関係を考える	戸塚ホール	市村 直子
2017/2/7	経営管理	全社協キャリアパス対応障害研修管理職員研修	日本社会事業大学	山極 愛郎
2017/2/13	認知症	第17回東京都認知症介護基礎研修	文京区	市村 直子
2017/2/14	認知症	第19回東京都認知症介護基礎研修	文京区	吉野 遼
2017/2/18~19	相談援助	社会福祉士実習指導者講習会	戸山サンライズ	市村 直子
2017/3/28	介護	平成28年度小金井市介護ヘルパー研修会	社会医学技術学院	宮川 夏子
2017/3/30	介護	平成28年度小金井市介護職員現任研修	小金井市役所	市村 直子
2017/3/30	介護	平成28年度小金井市介護職員現任研修	小金井市役所	大木 清美

3. 医療部門

【 総 括 】

1. 桜町病院（拠点区分）の医療事業活動における主な科目の収支状況は次のとおりである。

(1) 収入

1) 入院診療収入

入院患者数が計画に届かなかったことから計画収入を計上できなかった。

計画 2,120,866 千円

実績 2,047,250 千円（計画比▲73,616 千円、昨年度比▲9,455 千円）

患者数 計画 163 人 実績 157.0 人（▲6.0 人、昨年度比+0.4 人）

診療単価 計画 35,639 円 実績 35,975 円（+336 円、昨年度比+540 円）

入院診療収入 診療単価は計画を上回ったが、患者数の減をカバーできず計画収入を下回った。

2) 外来診療収入

計画 719,469 千円

実績 716,529 千円（計画比▲2,940 千円、昨年度比 7,570 千円）

患者数 計画 387 人 実績 377.3 人（▲9.7 人、昨年度比▲4.0 人）

診療単価 計画 6,314 円 実績 6,357 円（+43 円 昨年度比+2 円）

外来診療収入 患者数は計画に届かなかったが診療単価が上がったことからほぼ計画した収入を上げることができた。

(2) 支出

支出については、業務遂行に支障のない範囲内での支出抑制や節減に努め、科目ごとの増減はあるものの計画内に納めることができた。

1) 人件費支出

計画 2,149,084 千円

実績 2,195,356 千円（計画比 46,452 千円、昨年度比+48,114 千円）

2) 事業費支出

①医薬品支出

計画 220,690 千円

実績 219,376 千円（計画比▲1,314 千円、昨年度比▲4,002 千円）

② 診材・医療等材料支出

計画 179,329 千円

実績 178,364 千円（計画比▲965 千円、昨年度比▲529 千円）

③水道光熱費支出

計画 63,920 千円

実績 53,694 千円（計画比▲10,226 千円、昨年度比▲7,899 千円）

④ 業務委託費支出

計画 238,059 千円

実績 222,569 千円（計画比▲15,490 千円、昨年度比▲2,458 千円）

3) 事務費支出

①業務委託費支出

計画 35,505 千円

実績 37,010 千円（計画比 1,505 千円、昨年度比▲5,207 千円）

(3) 事業活動資金収支差額

計画 225,961 千円

実績 108,076 千円（計画比▲117,885 千円、

収入が計画に対し未達となり、事業活動資金収支差額は大きな減額となった。

2. さくらまち保育所（サービス区分）

保育児実数 39 人の保育を行った。

事業活動収支において▲17,193 千円となった。

3. 桜町児童ショートステイ（サービス区分）

小金井市始め小平市など近隣市の障害児の短期入所 299 人及び日中一時支援 240 人の支援を行った。

事業活動収支において▲4,151 千円となった。

I 桜町病院（生計困難者の為に無料・低額な料金で診療を行う事業）

【運営状況】

1. 事業概況について

平成 28 年度は四つの目標、①黒字経営を維持する、②医療の質の向上を図り、安全な医療、満足度の高い医療を実践する、③地域の医療機関等との連携を深める取り組みを拡大する、④病院の目指す医療を実践するに足る職員を確保するとともに、職員の資質向上のための研修環境を充実させる、を掲げて運営してきた。

四つの目標のうち最大の目標としてきた黒字化の達成を除くと概ね大きな問題もなく運営ができた。患者満足度調査結果によると、入院では 90%以上、外来では 85%以上の患者さんから満足との評価をされている。自由意見には親切でやさしい対応に感謝する、地元このような病院があり心強いという意見が見られる。また、患者投書箱には温かい対応に感謝するという多くの投書をいただいている。これらを見ても当院の医療提供に対しては総じて高い評価をいただき、桜町マインドによる医療・看護がされていることを感じている。

医療提供についてはこのような状況にある一方、黒字化を達成することが出来なかったことは大きな反省点であると総括している。病院経営環境としては厳しい状況が続いている中ではあるが、管理者と職員が現状についての認識の共有と目標に対する強い意識作りが足りなかった結果と反省をしている。引き続き気を引き締めて運営に当たっていく必要のあることを改めて確認したところである。

この意識改革による経営改善を続けていくことに加え、病床機能の変更という方法をとることにより増収を図っていくこととし、次年度の「地域包括ケア病棟」（急性期と在宅との橋渡し役をする病棟）の導入に向け準備を行った。また、7 月からは「地域連携型認知症疾患医療センター」の運用という新たな取り組みも始めた。

(1) 診療体制の変更

1) 地域包括ケア病棟導入決定

国は団塊の世代が全て後期高齢者となる 2025 年（平成 37 年）の医療提供体制モデルを設定して医療制度改革を進めており、病床機能報告の実施、地域医療構想の策定を行う一方、平成 28 年の診療報酬改定においても病床機能の動向にも大きな影響を及ぼすこととなる誘導政策と思われる改定が行われた。このような改革の動向を目の当たりにし、病院の方向性を見定めて立ち位置を決めていかなければならない時期に来ていることを実感している。当院では 7 対 1 の看護体制をとる急性期病院からの患者を受け入れる必要性と在宅への患者の流れを継続・維持する必要性から、北 4 階病棟（48 床）全てを「地域包括ケア病棟」とすることとし、平成 29 年 4 月の移行に向け準備を進めてきた。患者調整ルール作り、設置条件に見合う職員の配置、条件を満たすリハビリ実績作り、データ提出加算の届出など病棟開設の準備を整えてきた。

医療界における環境が大きく変化している中で、患者や要介護者を地域で支えていくための当地域の地域包括ケアシステム環境を整えていく中心的な役割を果たすためにも、医療から地域、介護領域への橋渡しの役割を果たすこの病棟の役割は大きなものがあると考えている。

2) 地域連携型認知症疾患医療センター指定・運営

平成 28 年 7 月、当院は東京都から小金井市の「地域連携型認知症疾患医療連携センター」に指定された。認知症センターは、小金井市、小金井市医師会や地域の医療機関、訪問看護ステーション、地域包括支援センター等との連携により、認知症患者が途切れない支援を受け安心して暮らしていくことができるよう支援する小金井市の認知症患者を支援する中核的施設である。

今年度は、その役割を果たすためのセンターとしての足場固めの期間であり、小金井地域の認知症患者やそれを支える方々を支援していく土壌作りを模索してきた。鑑別診

断 121 件、専門医療相談 4,987 件、会議・研修会の開催 4 回・参加者 113 人、研修会等への講師派遣 3 回、小金井市等主催の会議等への出席 7 回、認知症カフェの実施 1 回、認知症センターパンフレット作成等を行った。

(2) 無料低額診療事業について

無料低額診療事業の実施状況としては、無料低額診療事業の中でも中心的位置づけにある特診券を使った在日難民、オーバーステイ外国人、ホームレスなどの利用が多いことが当院の特徴である。この事業の実施によりこれまでは固定資産税が免税となる 10% の基準を上回る実績を残してきた。

平成 29 年度からの東京都の事業実施基準の見直し（東京都の基準がほぼ国の基準となり、事業の対象者から当院では約 6 割を占める障害者等が除かれる。）を控え、対象者数を全患者数の 10%以上にするために、対象者の掘り起こしを進めながら、医療難民の支援に努めている。

(3) 小児リハビリテーション (PT) 開始

リハビリテーション医療は、当地域において手薄となっている小児リハビリについて、近隣の医療機関からの技術指導などのスタッフ育成支援を受けながら取り組みを始めた。

(4) MRI の更新

当院の MRI (0.3 テスラ) は導入から 10 年を超える年月を経過していることや画像が不鮮明のために、脳や骨の診断には十分に使えない状況になってきた。

このため、今後の整形外科や産婦人科、精神神経科等の診療の充実のために、8 月から 9 月にかけて MRI の稼働を止めて 1.5 テスラの MRI への更新工事及び機器の入れ替えを行い、10 月から本格稼働させた。整形外科を筆頭に前機種の日平均 5.1 件から更新後は 1 日 6.9 件と活用件数が増えている。また、近隣病院・クリニックからの依頼にも応えるなど、活用の範囲が拡大しつつある。

(5) 診療報酬改定への対応

平成 28 年度の診療報酬改定が行われたが実質マイナス改定であり、当院においてもマイナス改定の影響が出ている（入院▲0.6%、外来▲0.5%）。

改定を受け地域包括ケア病棟への取り組みをはじめ、総合評価加算、退院支援加算拡大、データ提出加算取得への取り組みなどを行うなど、加算取得に向けきめ細かく対応してきた。更に取得効果を試算しながら新たな加算取得を目指していく予定である。

(6) 病院機能評価受審準備

平成 29 年 7 月に更新を予定している病院機能評価受審に向け、その準備のために病院機能評価委員会を再開して取り組みを進めてきた。第三者評価の仕組みとしての病院機能評価の認知度はあまり高くないが、受審を機会に患者サービスの向上、医療の質の向上、医療の標準化、業務改善などを進めるきっかけになり得るものであるため、この受審準備をとおして病院の多分野にわたる更なる改善を推進し、医療の質の向上や体制の充実につなげていきたい。

(7) 診断書統一的取扱い体制構築及び作成支援体制準備

かねてからの課題であった診断書等取扱いの一元化を図る体制の構築と合わせて、医師の負担軽減のための診断書等作成支援システム導入の詰めの作業として、診断書等取扱い手順の策定や作成支援ソフトの選定を行い、次年度早々に一元化と支援ソフトによる診断書等の作成が出来るよう準備を行った。

(8) ストレスチェックの実施

当院ではストレスチェックの実施義務化後初めてのストレスチェックを、6 月の定期健康診断に合わせて実施した。高ストレス者は 8.7%と比較的低率であった（厚労省の想定値 10%）。実施結果を検証するとともに現状を正確に把握し得るストレスチェックの実施に向け、回を重ねること、改善を重ねていくことが重要であると考えている。何れにしても、この結果を個々人のストレス、職場の勤務環境等の改善に活用していかなければならない。

(9) 資格取得支援

資格取得支援により感染管理認定看護師資格取得が実現した。更に認知症認定看護師資格の取得受講中で、次年度早々には取得となる予定である。何れも重要な分野の資格であり、同分野の業務の質向上に役立っていくことを期待している。

(10) 職員確保で難渋

栄養科調理員、療養病棟助手、保育所の保育士や診療情報管理士の補充ができない状況にあり確保の努力を続けた。看護師の採用が困難な年はあったが、今年度ほど色々な職種

の採用が厳しかった年は経験していない。次年度前には看護助手を除きほぼ目標とする数を揃えることができた。

(11) 保育所の運営委託

看護師等の職員採用の有利性、仕事と子育ての両立支援を目的として昭和49年から保育所を設置し運営してきている。職員採用に当っては保育所があることの有利性を実感している。

近年、行政主導で幼稚園や保育園に入れず、いわゆる待機児童の問題解決を図るために幼稚園や保育所を増やす施策を進めていることもあり、保育士の採用が極めて困難な状況にある。当保育所にあっても採用条件を変えて採用に当たってきたが退職保育士の補充ができないまま年度を超えそうな状況になったことから、苦渋の策として保育所の運営を外部業者に委託することとした。

2 数値計画の達成状況

夏場に数年ぶりに患者の多い状態（在院数179人）があったものの、通年ベースでは近年の患者数の少ない状態となったために、入院では計画数に対し6人/日のマイナスとなった。外来も計画に届かない結果となった。患者数がこのような結果となったことから、収入が計画に届かず確実に増加している人件費や一定額が後年度負担額として予定されている診療情報システム、医療機器などの経費を賄う収入が確保できないこととなり赤字を計上することとなった。

(1) 数値実績

1) 患者数・診療単価

年度計画の患者数、入院163人/日、外来387人/日に対し、入院157.0人、外来377.3人となり、計画に比し入院は▲6.0人、外来は▲9.7人となった。また計画診療単価、入院35,639円、外来6,314円に対し、入院35,975円、外来6,357円と計画を上回ったが、患者数が計画を下回ったことが赤字計上の要因である。

2) 手術件数・分娩件数

手術件数は858件、月平均71.5件と昨年度に比し1.6件の減少となった。分娩件数は456件、月平均38.0件と昨年度を1件上回った。少子化の中にあっても、評判の良い当院の分娩については、受け入れの工夫改善によっては増加する可能性が高いと考えている。

3) 人間ドック・健診充実

ドック・健診を利用していただく方々のサービス向上のためにこれまで医師の体制を強化するとともに予約制を取り入れて実施してきた。外来ドック・検診ともに実績は伸びている。外来ドックは646件と昨年度に比し19件の増加となった。外来ドックについては土曜日に胃カメラを実施することが出来たことやドックのパンフレットを刷新すること等により次年度に向け件数増加（目標値700件）を目指している。健診は小金井市健診2,021件、特定健診575件とそれぞれ昨年を上回る実績となった。

(2) 医療事業収支

医療事業に係る収支状況は次のとおりである。

1) 医業収入

計画3,243,279千円→実績3,162,882千円（▲80,397千円）

昨年度比+2,952千円

・患者数 入院 計画163人→実績157.0人（▲6.0人）

外来 計画387人→実績377.3人（▲9.7人）

・診療単価 入院 計画35,639円→実績35,975円（+336円）

外来 計画6,314円→実績6,357円（+43円）

・入院診療収益 2,120,362千円→2,046,509千円（▲73,853千円）

入院診療単価は、計画を上回ったが患者数の減少をカバーできるほどではなかったことから、入院収益は予算比で7.4千万円の計画減となった。

・外来診療収益 718,380千円→699,564千円（▲18,816千円）

外来は、診療単価が計画より少し上がったが、患者数が計画に届かなかったために計画比で2千万円弱の減少となった。

2) 医業支出

計画3,257,887千円→実績3,258,624千円（+737千円）昨年度比+32,353千円。

支出については抑えられるものは実施を見合わせるにより節減を図ってきた。

計画を74万円弱上回った。

3) 経常利益

医業事業の係る経常利益は、▲81,954千円と大きなマイナスを計上した。
(昨年度比▲27,625千円)。

3. さくらまち保育所

さくらまち保育所は、平成28年度は、フルタイム保育士6名、その他の勤務体制の保育士2名の体制で1日平均保育児数約8人の保育を行った。当該年度中に保育所を利用した児童実数は39人で、平日保育の他、24時間保育77回、休日保育40回を行った。保育所は前述のとおり保育士確保が困難であったことから運営を外部委託した。

4. 桜町児童ショートステイ

桜町児童ショートステイは、常勤保育士4名、非常勤保育士2名、アルバイト11名の体制で障害児の短期入所299人及び日中一時支援240人の支援を行った。

平成28年度は、引き続き平成27年度から3年間、同ショートステイを利用する多くの障害児が通学する都立小金井特別支援学校が校舎改築のために移転している西国分寺の仮校舎への通学支援体制作りを行った。関係市の支援を得ながらスクールバスによる通学支援や補助的にタクシー通学支援を行っている。

【平成28年度活動状況報告】

種別	許可病床数	患者数/日	延患者数	利用率(H28度)	利用率(H27度)	利用率(H26度)
入院	199床	157.0人	57,320人	78.9%	78.7%	76.6%
外来	—	377.3人	110,937人	—	—	—

平均在院日数	22.6日 一般16.0日 ホスピス69.2日 療養377.4日
新入院患者数	2,529人(前年度2,524人)
退院患者数	2,540人(前年度2,523人)
時間外患者数	592人(前年度548人)
紹介率・逆紹介率	紹介12.3% 逆紹介13.4%
手術件数	858件(前年度877件)
全麻件数	345件(前年度336件)
分娩件数	456件(前年度455件)
人間ドック件数	入院22件(前年度6件) 外来646件(627件)

【無料低額診療】 上段：平成28年度 下段：平成27年度

1. 受診人数

新規実人数	継続実人数	実人数計	延べ受診人数
22	12	34	158
22	7	29	126

2. 診療科別件数

内科	精神科	小児科	外科	整形外科	産婦人科	眼科
80	6	3	5	37	0	23
55	0	3	7	31	0	38

3. 依頼者別件数

福祉事務所	社会福祉協議会	難民支援	ホームレス支援団体	他病院	その他	合計
45	10	79	2	0	22	158
15	0	25	4	3	79	126

【職 員】 平成 28 年度年度始め・年度末職員数及び退任・就任状況

区分	平成 28 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 29 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	嘱託	正職員		非常勤職員		嘱託		正職員	非常勤職員	嘱託
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
院 長	1									1		
副院長	2									2		
医 師	20	53	1	2	3	10	15			19	48	1
助産師	8	8		2		3	2			10	9	
看護師	85	48		15	14	8	8			86	48	
准看護師	6	2	3		3					3	2	3
看護助手	19	5	2	3	3	1	4			19	2	2
薬剤師	5	2								5	2	
放射線技師	6		1							6		1
臨床検査技師	6	3	2							6	3	2
PT・OT・ST	13	5	1	2	1					14	5	1
栄養士	6	2					1			6	1	
MSW	5			2						7		
事務部	19	8		2						21	8	
施 設	3									3		
その他	17	25	1		4	3	11			13	17	1
合 計	221	161	11	28	28	25	41			221	145	12

注：就任・退任数には4月1日就任数及び3月31日退任数を含む

事務部の人数は（事務部長・総務課・経理・医事課）

その他の人数は（看護部長室・ORT・診療技術部助手・調理師・調理員・心理士・保育士等）

【患者動向】.

平成 28 年度診療科別患者状況

区 分	入 院		外 来	
	一日平均患者数 (人)	一日平均診療単 価 (円)	一日平均患者数 (人)	一日平均診療単 価 (円)
内科	40.5	25,453	125.0	8,043
	42.8	25,101	122.2	8,274
精神神経科	—	—	38.4	5,248
			36.5	5,089

小児科	2.7	29,101	65.3	4,210
	2.5	28,410	67.3	4,237
外科	13.6	28,400	18.3	6,044
	11.8	28,496	18.6	5,731
整形外科	24.7	43,951	50.4	6,869
	25.4	42,090	54.6	6,565
産婦人科	20.7	75,438	48.2	5,915
	19.9	77,359	48.7	5,940
眼科	0.8	124,067	30.2	5,488
	0.9	129,740	31.7	5,617
ホスピスコ	15.3	43,546	1.5	5,856
	14.2	45,147	1.7	5,094
ホスピス内科	3.1	25,253	—	—
	3.0	25,976	—	—
療養	35.7	18,526	—	—
	36.8	19,161	—	—
計	157.0	35,975	377.3	6,357
	156.6	35,838	381.3	6,355

注：上段 28年度 下段 27年度

【28年度機器等整備状況】

機 器 等 名	数量	新設・更新・増設・ 修繕	整備部署
超音波診断装置	1	更新	産婦人科
レゼクトスコープ	1	増設	産婦人科
エアロバイク	1	新規	リハビリ科
高精細モニター	2	増設	ドック健診部
健診システムライセンス	1	増設	ドック健診部
MR I	1	新規	放射線科
褥瘡予防クッション	58	更新	各病棟
バーテーブル	5	更新	南2階病棟
ストレッチャー	1	更新	南3階病棟
ベッドパンウォッシャー	2	新規	ホスピス病棟
パルスオキシメーター	2	増設	療養病棟
ノートパソコン	2	増設	外来
コールドテーブル	1	更新	職員給食室

【28年度施設・設備整備状況】

改修・修繕（修理）・模様替え・補修
病院本館空調機オーバーホール
病院本館空調用中性能フィルター交換
ホスピス外壁タイル面打診調査
ホスピス給湯ボイラー整備
病院本館厨房洗浄室床面改修
病院北側・西側舗装工事
病院外構樹木剪定管理
分娩台補修
検診台補修2台

【28年度教育研修実施状況】

研修名（研修タイトル）	年月日	開催場所	出席者数
医療における接遇とクレームへの対応	28. 5. 25	戸塚ホール	48名
「病院における感染予防対策」スタンダードプリコーションと実践	28. 6. 8	〃	72名
桜町病院における退院支援の実際	28. 6. 15	〃	38名
認知症サポーター養成講座	28. 8. 24	〃	29名
腰痛症について	28. 10. 6	〃	38名
「意外と身近な災害への対応」～地域のニーズに合わせて備える～	28. 10. 26	〃	45名
緩和ケア概論～スピリチュアルケアってなに～	28. 10. 28	〃	31名
院内の感染対策～予防接種の必要性～	28. 11. 24	〃	19名
スピリチュアルにつながるディグニティセラピー	28. 12. 9	〃	14名
医療安全研修 クレームの事例とその対応	28. 12. 12	〃	46名
スピリチュアルにつながる「聴く」力を養うコミュニケーションワークショップ	29. 2. 24	〃	35名
平成28年度院内研究発表会	29. 3. 11	会議室	50名

【市民講座】

研修内容	年月日	開催場所	出席者数
講演「腰痛について」 腰痛と予防体操 「姿勢と運動について」	28.6.4	戸塚ホール	50名
関節痛について 糖尿病と災害	28.9.10	〃	40名

<28年度さくらまち保育所>

項目	実績
保育児数	保育児延べ数 2,757 人（前年度 3,670 人）
	平日 2,630 人 休日 127 人
24 時間保育	延べ回数 77 回（前年度 86 回）
	延べ保育児数 127 人（前年度 167 人）
職員数	延べ数 1,542 人（前年度 1,608 人）
行事等	定期健康診断 5 月、11 月
	遠足 10/15（土） 27 名参加 保育字数 9 名
	クリスマス会 12/16（金） 14 人参加 保護者なし
	卒園式 3/31（金） 16 人参加 保護者なし

<28年度桜町児童ショートステイ>

項目	実績
短期入所 利用者数	299 人（前年度 239 人）
利用日数	868 日（前年度 670 日）
日中一時支援利用者数	240 人（前年度 264 人）
利用日数	448 日（前年度 465 日）
利用者住所地	小金井市、小平市、西東京市、武蔵野市

4. 公益事業部門

I 小金井訪問看護ステーション（訪問看護）

【平成28年度利用状況報告】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医保利用者	10	10	10	9	8	8	8	7	7	9	10	8	104
訪問件数	49	50	54	47	39	37	37	33	34	39	42	37	498
介保利用者	56	55	54	51	51	50	48	47	48	45	49	47	601
訪問件数	233	223	243	209	234	197	200	197	211	190	205	221	2563
(訪問リハ件数)	35	31	41	41	44	39	32	30	28	29	33	36	419

【職 員】

正職員 2名 ・ 非常勤職員 3名
職員異動なし

【施設運営状況】

- 平成28年度は職員の異動がなく、順調に訪問を行うことが出来た。訪問リハビリも月7-10名の方に訪問し、安定した件数となった。新規利用者数は前年度より半数となり、訪問件数も低下したが、週に複数回と訪問頻度の高い方、30分という短時間ではなく60分訪問の回数が多かったこと、利用者が退院の際行う「退院時共同指導」への参加等加算による収入が増えたことなどが前年度を上回る収益に繋がった。
- 新規利用者は減ったものの、桜町病院の患者が全体の45%を占めており、平成27年度同様、桜町病院とともに地域へ支援する体制となっている。「地域包括ケアシステム」づくりのためには「顔の見える連携づくり」が課題とされており、昨年行われた医師会主催の研修も他職種連携をテーマに行われていた。桜町病院看護師の研修受入れ、看護職員対象に勉強会を2度開催させて頂くことが出来たことは、「顔の見える連携づくり」の一步となったと考えている。
- 認知症の方、同居の家族も利用者となる方が増えており、ご自分たちで病状・生活を維持することが困難となっている場面は多い。家族介護力が弱い現状では、医療・福祉サービスが連携を綿密にし、また迅速にサービスを提供していく体制が求められており、スタッフひとりひとりがそのことを自覚し、展開できる能力の向上を目指すこととした。

【利用者支援状況】

- 利用者数（年間登録者）
86名（男42名 女44名）※前年度102名
- 利用者の住所
小金井市 85名 ・ 武蔵野市 1名
- 主治医（利用者 86名）
桜町病院 39名（前年度より -9名）
その他の医療機関病院 13名（前年度より -2名）
市内の開業医院 22名（前年度より -8名）
他市の開業医院 12名（前年度より +3名）
- 新規利用者紹介もと
平成28年度新規利用者20名（前年度38名）

包括	ケアマネ	医療機関	市役所	個人
0	8	10	0	2

※桜町病院主治医 12名

5. 訪問終了者 30名 (前年度 38名)

終了理由

死亡	入院	グループホーム	有料ホーム	障害施設	他 ST へ移行	その他
6	12	1	3	1	2	5

【教育研修】

研修名	年月日	主催	出席者
精神訪問研修	H28. 5/29 6/4・6/5	日本精神科看護協会	福川美津子
高齢者理解	H28. 6/10	都ナースプラザ	白石由佳
認知症サポーター研修	H28. 7/13	介護事業者連絡会	當山典子・福川美津子
認知症サポーター研修	H28. 8/24	桜町病院	白石由佳
地域リーダー研修	H28. 9/4	東京都医師会	當山典子
精神訪問研修	H28. 10/8	日本精神科看護協会	白石由佳
包括ケア講習会	H28. 10/28	小金井医師会	福川美津子
多職種研修会	H28. 11/18	市地域包括ケア研究会	當山典子
事例検討会	H28. 8/4. 12/15	ステーション内	スタッフ一同
糖尿病ケア	H29. 2/24	多摩医療センター	當山典子

【実習受け入れ】

有明医療大学看護学部学生実習 6名
桜町病院看護師 3名

I 聖ヨハネホスピスケア研究所

【平成28年度活動状況報告】

- 1) ホスピスセミナー
主に一般市民、看護学生など対象に実施。
計4回実施。 参加者142名
- 2) 医師研修
「ホスピス緩和ケアドクター養成研修」 (笹川記念保健協力財団助成事業)
1年間を通し、ホスピス緩和ケアの理念、および知識・技術を学ぶ。
平成28年度はなし。
- 4) 音楽療法
非常勤研究員の音楽療法士による、入院患者1人1人のニーズに応える個別の音楽療法
「音楽宅配便」を、基本的に週1回実施した。
- 5) 講演会
ケアタウン小平と共催にて実施。
テーマ「石飛幸三 いのちを語る」 講師：石飛幸三先生
(3月30日 小金井市民交流センター 大ホール)
参加者 522名
- 6) 学会発表・研究
平成28年度はなし。
- 7) ホスピスボランティア講座
聖ヨハネホスピスと共催で5月～6月の2ヶ月間に計7回の講習を実施。
参加者 33名
- 8) 「アロマセラピー」の取り組み
病棟スタッフと委託研究員のアロマセラピスト1名と共に、
患者・家族へアロマセラピーを毎月1回実践。
年後半よりアロマセラピストの事情により、病棟スタッフのみで実施。
- 9) 研修会の実施
主に在宅医療・療養に従事する職業を対象に、以下の4回の研修会を実施した。
 - a) 「よくわかる！スピリチュアルペインとそのケア」 (7月 山崎所長)
参加者 33名
 - b) 「終末期がん患者さん・ご家族へのケア」
(9月 山崎所長・ケアタウン小平訪問看護ステーション蛭田みどり様)
参加者 27名
 - c) 「終末期がん患者さん・ご家族へのケアのポイント」
(12月 山崎所長・ケアタウン小平訪問看護ステーション蛭田みどり様)
参加者 39名 (広報地域を変えて募集)
 - d) 「どう支える 看取りまでの1週間」
(聖ヨハネホスピスと共催 1月 三枝先生)
参加者 33名

【職員】

特になし。

【施設運営状況】

特になし。

【施設整備状況】

特になし。

5. 収益事業部門

施設名 : シニアハイムさくら	(高齢者賃貸住宅)
-----------------	-----------

【施設運営】

小金井の地で医療・介護・福祉サービスを展開している中で、入院や特養入所にいたる前の段階で小規模でも安心して生活できる場の形成が必要との考えから、高齢者賃貸住宅を提供することの意義があると考え本事業をスタートし4年目を迎えた。地域包括ケアシステムを構築する過程で老後を自宅又は小金井市内にて居住したいとの要望は大変高いが、全くの在宅独居の生活は不安だという高齢者の方の住まいが求められており、高齢福祉部門としても介護保険事業だけでは本来目指そうとしている高齢者の安心につながるサポートを充実できないという考えでこの事業を開始した。対象者は自立された方で在宅介護サービスを利用し自立生活可能な方とし、介護スタッフは配置せず管理人を配置し、ケアマネジャーは桜町ケアマネジメントセンターが基本的に受け持つという基本方針で進めることとなった。

これまでの経験から、利用者の前住居の整理、荷物の取捨選択といったところに時間をかなり要することがわかってきた。また入居後に身体の衰えなどで特養への入所に移ってしまうケースも予想していた以上に多いということがわかった。今年度は2室が空き状態となり、60%の入所率となった。

居室は全個室で5戸。現在、5名の受付ボランティアが月曜日～土曜日の10:30～16:00常駐し対応して頂いている。今後は、法人内のサービス連携（デイサービス、配食等）をより具体的に進めていきたい。

【平成28年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	平成28年度利用率
シニアハイムさくら	5室	3名	60.0%

【施設整備状況】

特になし

三 理事会並びに評議員会

1 理事会

- 第 293 回 平成 28 年 5 月 27 日 (金) 本館戸塚ホール
(報告) 1 理事長専決事項の経過報告について
(平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)
(議題) 1 平成 27 年度決算監事監査報告について
2 平成 27 年度事業報告について
3 平成 27 年度決算報告について
4 諸規程の改訂について
(1)桜町病院 職員給与規程
(2)高齢福祉部門 就業規則
(3) " 職員給与規程
(4) " 組織規程
(5)障害福祉部門 組織規程
- 第 294 回 平成 28 年 9 月 27 日 (火) 本館戸塚ホール
(議題) 1 社会福祉法の改正に基づく定款一部変更について
2 忍野村村道整備に係る基本財産処分について
3 定款変更認可申請について
4 社会保険適正化サービスの検討について
- 第 295 回 平成 28 年 11 月 4 日 (金) 本館戸塚ホール
(報告) 1 荒川区東日暮里二丁目障害者グループホーム公募について
(議題) 1 諸規程の改訂について
(1)富士聖ヨハネ学園 給与規程
(2)障害者地域生活支援センター 給与規程
(3)高齢福祉部門 給与規程
- 第 296 回 平成 28 年 11 月 29 日 (火) 本館戸塚ホール
(報告) 1 平成 28 年度上半期実績報告について
(議題) 1 平成 28 年度補正予算について
2 会計監査人の候補者選定について
- 第 297 回 平成 28 年 12 月 22 日 (木) 本館戸塚ホール
(議題) 1 評議員選任・解任委員会運営細則の制定について
2 評議員選任・解任委員の選出について
3 評議員選任・解任委員会に提出する「次期評議員候補者」の選出について
4 諸規程の制定について
(1)法人本部 職員就業規則
(2) " 嘱託職員就業規則
(3) " 非常勤職員就業規則
(4) " 職員給与規程
(5) " 旅費規程
5 富士聖ヨハネ学園における委託業務契約について
6 施設の人事について
- 第 298 回 平成 29 年 1 月 23 日 (月) 本館戸塚ホール
(報告) 1 荒川区障害者グループホームの経過報告について
(議題) 1 施設の人事について
2 評議員選任・解任委員会の招集について
- 第 299 回 平成 29 年 3 月 21 日 (火) 本館戸塚ホール
(議題) 1 中期経営計画 (平成 29 年度～31 年度) について
2 平成 29 年度事業計画について
3 平成 29 年度予算について
4 諸規程の改訂について
(1) 経理規程
(2) 障害福祉部門 組織規程
(3) " 給与規程

- (4) 小金井聖ヨハネケアービレッジ 運営規程
- 5 施設の人事について
- 6 富士聖ヨハネ学園の清掃業務委託契約について

2 評議員会

- 第 88 回 平成 28 年 5 月 27 日 (金) 本館戸塚ホール
(議題) 1 平成 27 年度決算監事監査報告について
2 平成 27 年度事業報告について
3 平成 27 年度決算報告について
4 諸規程の改訂について
(1)桜町病院 職員給与規程
(2)高齢福祉部門 就業規則
(3) // 職員給与規程
- 第 89 回 平成 28 年 9 月 27 日 (火) 本館戸塚ホール
(議題) 1 社会福祉法の改正に基づく定款一部変更について
2 忍野村村道整備に係る基本財産処分について
3 定款変更認可申請について
- 第 90 回 平成 29 年 3 月 21 日 (火) 本館戸塚ホール
(議題) 1 中期経営計画 (平成 29 年度-31 年度) について
2 平成 29 年度事業計画について
3 平成 29 年度予算について

四 評議員選任・解任委員会

- 開催日 平成 29 年 1 月 25 日 (水) 本館戸塚ホール
(議題) 1 平成 29 年 4 月 1 日からの新評議員の選出について

五 経営会議

平成 28 年 4 月 19 日（火）開催 本館戸塚ホール
（報告）

- (1) 月次報告（平成 28 年 2 月度）について
- (2) 新メンバー紹介について

（議題）

- (1) 平成 27 年度決算監事監査について
- (2) 次回理事会評議員会の議案について
- (3) 女性活躍推進法への対応について
- (4) ヨハネ祭収益金の復興支援使途について
- (5) 社会福祉法改正への対応について
- (6) 財務分析について

平成 28 年 5 月 17 日（火）開催 本館戸塚ホール
（報告）

- (1) 月次報告（平成 28 年 3 月度）について
- (2) ヨハネ祭収益金の復興支援使途について
- (3) 各種情報
 - ① 摂食嚥下障害の基礎知識講座
 - ② 第一回医療・介護多職種連携研修会
 - ③ 社会福祉法改正ハンドブック
 - ④ 福祉避難所の新聞記事

（議題）

- (1) 次回理事会評議員会の議案について
- (2) マイナンバーの給与ソフト保存期間について
- (3) 障害者雇用について
- (4) 法人合同研修について

平成 28 年 6 月 21 日（火）開催 本館戸塚ホール
（報告）

- (1) 月次報告（平成 28 年 4 月度）について
- (2) 各種情報
 - ① 武蔵野徳洲会病院公開医療講座
 - ② 生活援助が介護保険外に
 - ③ 東社協知的部会の学習会

（議題）

- (1) 短時間労働者に対する社会保険の適用拡大について
- (2) 改正法への対応について
 - (ア) 内部留保について
 - (イ) 地域における公益的な取り組みについて
 - (ウ) 役員賠償責任保険について
- (3) ヨハネ祭実行委員会について
- (4) 法人組織規程について
- (5) 職場紹介の開催について
- (6) 社内検定について
- (7) 処遇改善加算の報告期限について
- (8) 福利厚生について

平成 28 年 7 月 26 日（火）開催 本館戸塚ホール
（報告）

- (1) 月次報告（平成 28 年 5 月度）について
- (2) 小金井市社会福祉協議会移転の案内
- (3) はたらくサポートとうきょう事業説明会案内
- (4) 職場紹介について
- (5) 法人合同研修について

(6)会計ソフト「福祉大臣」の windows10 への対応について
(議案)

- (1)改正法に関する厚労省からの事務連絡について
- (2)中期行動計画について
- (3)福利厚生アンケート結果について
- (4)監事監査指摘事項の改善チェックについて (法人ガバナンス)
- (5)理事長と経営幹部の面談について
- (6)社内検定について
- (7)地域公益活動の取り組み事例について

平成 28 年 9 月 6 日 (火) 開催 本館戸塚ホール
(報告)

- (1)月次報告 (平成 28 年 6 月度) について
- (2)富士聖ヨハネ学園職員研修について
- (3)理事長と経営幹部の面談票について
- (4)自賠償保険について

(議案)

- (1)改正法に基づく定款変更 (案) について
- (2)ヨハネ祭での介護予防イベントについて
- (3)法人合同研修 (第 2 期) について
- (4)次回の職場紹介について (11 月 30 日予定)
- (5)コンプライアンス研修 (E ラーニング) について
- (6)中期経営計画について
- (7)ボーリング大会について
- (8)ブランド力を知るための職員アンケートについて
- (9)社会保険適正化サービスについて

平成 28 年 9 月 28 日 (火) 開催 本館戸塚ホール
(報告)

- (1)月次報告 (平成 28 年 7 月度) について
- (2)MR I 設置について (病院)
- (3)法人本部への職員異動について (本部)
- (4)法人パンフレット記載内容見直しについて (本部)

(議案)

- (1)改正法に基づく定款変更 (案) について
- (2)社会保険適正化サービスについて

平成 28 年 10 月 18 日 (火) 開催 本館戸塚ホール
(報告)

- (1)月次報告 (平成 27 年 8 月度) について

(議案)

- (1)理事長と経営幹部の面談日程について
- (2)改正法の政省令発出状況について
- (3)桜町聖ヨハネ祭の振り返りについて
- (4)次回の職場紹介について
- (5)ボーリング大会について
- (6)ブランド力を知るための職員アンケートについて
- (7)コンプライアンス研修について
- (8)中期経営計画案の進捗状況について
- (9)今年度の補正予算について
- (10)会計監査人の選任と会計担当者合同会議について

平成 28 年 11 月 15 日 (火) 開催 本館戸塚ホール
(報告)

- (1)月次報告 (平成 28 年 9 月度) について

- (2)コンプライアンス研修の実施状況について
 - (3)退職金制度の状況における調査結果について
- (議案)

- (1)ボーリング大会について
- (2)桜町聖ヨハネ祭の確認事項について
- (3)地域における公益的活動について
- (4)上半期実績報告及び補正予算について
- (5)改正法の政省令発出について
- (6)会計監査人候補の選出について
- (7)中期経営計画について

平成 28 年 12 月 20 日 (火) 開催 本館戸塚ホール
(報告)

- (1)月次報告 (平成 28 年 10 月度) について
 - (2)ボーリング大会会計報告について
- (議案)
- (1)中期経営計画 (案) について

平成 29 年 1 月 24 日 (火) 開催 本館戸塚ホール
(報告)

- (1)月次報告 (平成 28 年 11 月度) について
 - (2)施設の人事について
- (議案)
- (1)中期経営計画 (案) の最終取り纏めについて
 - (2)桜町ヨハネ祭の収益金使途について
 - (3)平成 29 年度法人運営費について

平成 28 年 2 月 21 日 (火) 開催 本館戸塚ホール
(報告)

- (1)月次報告 (平成 28 年 12 月度) について
 - (2)法人合同研修アンケート結果について
- (議案)
- (1)平成 29 年度合同入職式日程について
 - (2)平成 29 年度事業計画及び予算スケジュールについて
 - (3)改正法による財務諸表等開示システムの入力に伴う会計ソフトのバージョンアップについて
 - (4)経理規程の改訂について